

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	－	－	－
		商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民の消費活動はほとんど変わらないが、消費税増税の影響が薄れてきたため、外国人観光客とともに、道内外からの旅行者が前年より多く訪れている。当地域の夏の最大イベントにおいても、前年と比べて4万人以上の来街者の増加となった。これにより、飲食は元より、宿泊業、交通関連、お土産品などで売上の増加があったとともに、衣料品及び装飾品でも旅行者を中心に売上を伸ばした。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・中国語圏の観光客が増えたことから、売上は前年比110%となった。特に、晴天が続き、北海道らしい初秋のなか、豪華客船が9隻入港したこと、今年で5回目を迎えた地元のイベントが行われたことの効果が大きい。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・他店とのセール時期のずれもあり、売上は前年比92%程度にとどまっているが、来客数は前年比99.5%と前年並みに復調している。また、セールの売上が前年比90%となっているのに対して、秋物の定価品が前年比92%となっており、暑い夏を過ぎて需要が秋物にシフトしている。ウェアの動きはまだ鈍いが、婦人物のシューズ、ブーツなどのファッションアイテムに動きが出ている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数がこれまでの前年比80%台から、前年比90%台に増加しており、若干の回復傾向がみられる。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税増税以降、来客数の減少は続いたままだが、購買客数、客単価が上がってきており、景況感が良くなりつつある。
		百貨店（販売促進担当）	それ以外	・5月と比べて、消費税増税後の反動減のマイナス幅は縮小してきている。ただ、4月以降、徐々に回復基調にあるものの、前年実績までには至っておらず、回復が早いと報道される首都圏とは温度差がある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・盆期間の曜日並びが良かったこともあり、客の動きが活発だった。お金の余裕が出てきたように感じられる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・気温の上昇とともに、夏の各イベントが行われていることで街に活気が戻り、観光客などでにぎわっていた。水産関係もさんまやいわし、いかなどが豊漁で物流も良くなっている。着物展示会などの催事でも高額商品に動きがみられ、売上増加に結び付いた。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年と比較して、販売量が若干上向いている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前は消費税増税の影響の真っ只中であったが、今月に入り、ようやく客の動きが落ち着いてきた。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国本土からのチャーター便による来客が好調である。国内旅行も個人客、団体客ともに好調である。その反面、Webサイトでの客室提供が困難になっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・天候不順であったが、農作物の作況などに大きな影響は出ていないため、管内の航空需要はやや上向きになっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・値引き幅を小さくしたにも関わらず、地区を問わず、幅広い世代で通信機器の販売量が前年比で2割以上伸びている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・価格に対する客の反応が変わってきた。余裕があるのか、あきらめなのかは分からないが、いずれにしても、これまで高額で敬遠されていた商材が売れるようになってきた。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税の影響が薄れてきたなかで、天候不順の影響で来客数が減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税の反動が取り、そろそろ回復基調に転じるかとみられたが、実際にはそれほど良くなっていない。天候も気温も落ち着いていることから、北海道の景気回復は足踏み状態にある。また、GDPの落ち込みが報道されたことから、消費が慎重になっていることが心配される。ただ、8月の国内観光客は数こそ少なかったものの、客単価に若干の上昇がみられた。これは全国的な景気の回復基調が要因とみられる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・夏物のセールも終盤を迎えたが、商材が品薄だったこともあり、婦人服、紳士服とも売上は前年比90%台前半であった。また、8月下旬から秋物の展開を始めているが、気温の低下とともに動きがみられるものの、まだ、前年並みの水準にとどまっている。
		百貨店（役員）	販売量の動き	・過去2か月と比べて、多少は動きが出てきているが、上向くところまでは至っていない。特に、高額品やインポートブランドの動きが鈍い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・消費税増税の影響もあるが、ガソリン価格の高騰や高速道路料金の休日割引の縮小により、土日の来客数の減少が続いている。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・8月10日までの既存店ベースの来客数は前年比96%台と、7月と同様に非常に厳しい状況で推移していたが、お盆後の17日までの来客数は100%まで回復した。しかし、その後は月前半と同様に来客数が伸び悩んでいる。ただ、売上については、客単価が前年比103%強で推移していることもあり、7月と比べて前年比が2%ほど上昇している。
		家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要からの回復遅れが予想以上に長引いている。特に、エアコン需要については、前年より過ごしやすかった気候のせいもあり、大きく落ち込んでいる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・季節柄、2月と8月は決算期前で販売量の減る時期であるが、周りをみても駆け込み需要がなく、苦戦している状況にある。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新車、中古車ともに、受注量が一方向に上向いてこない。受注残もなくなってきており、売上にも影響が出てきている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・7月以降、消費税増税の影響が和らいだ雰囲気があったが、競合店を含めて、8月に入っても売上が前年を下回ったままである。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前月に続き、夏休み期間であるにもかかわらず、混雑による長時間待ちがない。消費税増税の影響がまだ残っていることに加えて、特に今年は天候不順による交通機関のまひなども影響して、来客数は前年を10%下回った。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・8月はぎりぎり前年並みの売上となった。もう少し売上が増加することを期待していたが、比較的、天候が良かったことでレストランではなく、ビアガーデンに向かう客が多かった。週末のランチで割高なメニューが売れるなど、一部では景気回復の動きも感じられるが、客の多くは消費税増税を受けて消費を控えているようであり、全体的には客単価が上がってきていない。地方では千円前後のランチが主流となっているが、当地では低価格競争が厳しく、当店にとって荷が重い状況となっている。
		観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・3か月前と変わらず、個人客と外国人団体客の入込が堅調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・同じ業種の客であっても、売上の良いところとあまり思わしくないところがあるようで、何を基準に景気を判断すれば良いのか分からない状況にある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・8月上旬は雨の日が多く、タクシー利用も前年より多かったが、中旬以降は天気の良い日が多く、涼しくなってきたため、タクシー利用が前年より減っている。1か月全体の売上では前年を若干下回った。
		タクシー運転手	販売量の動き	・8月は様々な催し物がある月であり、なおかつ今現在、観光客の入込が増えていることもあり、人の流動性が良くなっているのは確かだが、そうした動きがなかなか売上に繋がってこないジレンマがある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・7月の売上は微増となったが、ほぼ前年並みの水準であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、同様の来客数を保っており、良くもないが悪くもない状況が続いている。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・食品や雑貨など、単価の低い商材は消費税増税後の買い控えから回復しつつあるが、住宅や自動車などの単価の高い商材は売上が非常に厳しくなっている。	
		住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・最近の傾向として、客の二極化が明確になってきている。都心部の高価格帯の分譲マンションでも購入できるような客がみられる一方で、都心からやや離れた地下鉄駅近くの高騰を続ける新築分譲マンションをあきらめて、中古マンションを探している客もみられる。分譲マンションの市場規模は今が限界とみられる。	
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・飲食関連に限定すると、雨などの天候不順による交通機関の乱れの影響で、帰省客や地元客の利用が前年よりも減少している。	
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、やや景気が悪く、買物をする商材の数を抑えようという方向にある。	
		一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・売れ筋商品に単価の高いものと低いものがある場合、消費税増税後は特に単価の低いものが売れるようになり、単価の高いものほど敬遠される傾向が顕著になっている。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・8月は消費税増税の影響があった5月よりもさらに悪くなっている。8月の販売量は前年比94%であり、3か月前と比較しても3%程度落ち込んでいる。	
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・消費は回復するどころか、段々と落ち込んでいる。	
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・当地では、8月のさんまの漁獲高が前年比130%となっている港もあり、漁業が少し上向きになってきている。	
		コンビニ（オーナー）	単価の動き	・来年の消費税増税を気にしている客が多く、買い控えが進んでいる。日々の買物においても、価格に対して非常にシビアになるなど、まだデフレが進みそうな気配がある。	
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・消費税増税の影響がみられる。	
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月後半の売上は前年を大きく下回った。お盆後の来客数も前年を下回って推移した。客は必要品以外をまだ買わない傾向にある。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・ガソリン価格などの高止まりにより、販売量が低調である。	
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べて、販売量が良くない状況にある。	
		タクシー運転手	販売量の動き	・夏休みに入り、観光客の増える時期となっていることもあり、3か月前と比較して、売上が約16%増加しているが、前年は約27%も売上が伸びていた。また、前年の売上との比較でも、約7%の落ち込みであることから、やや悪くなっている。	
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・8月26日現在、来客数が前年比88.6%となっていることから、やや悪くなっている。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・台風を始めとする天候悪化により、フェリーの欠航が増加したことから、輸送量が大きく落ち込んだ。	
		悪くなっている	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・消費税増税後、来客数に大きな減少はないが、たばこやアルコールといったし好品の販売量の減少に歯止めがかからない。また、8月は天候不順の影響もあり、ピークの売上を確保できなかった。
			企業動向関連（北海道）	—	—
		やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅関連の需要はまだまだ停滞気味であり、特に地方においてその傾向が顕著である。一方で、公共事業を含めた請負物件の需要はおう盛である。
通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き		・受注量が前年から10%程度の増加で推移している。一方で、供給力が追いつかず、すべての受注に対して対応できない状況になってきている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（企画担当）	それ以外	・消費税増税の影響は薄れている。建設関連は住宅着工が落ち込んでいるが、公共工事は高水準が続いている。観光は天候不順の影響で国内観光客数が横ばいで推移しているが、外国人観光客は大幅に増加している。一方、建設業を始め多くの業種で人手不足が深刻化している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の消費税増税の影響による受注減と比較すると、一気に需要が回復している。さらに、設備案件が例年にならぬほど多く、好調に推移している。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の需要がほぼ平常に戻っている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて大きな変化はないが、前年よりは少し動きが良い。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間工事において飛び込みの工事打診がみられるが、当社の人員、協力会社の確保が困難なことで断っている状況にある。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙工場の生産は順調である。飲料品については、各メーカーとも東日本での販売に苦戦していることで、前年から2割近い落ち込みとなっており、本州向けの輸送量が予算を下回っている。一方、西日本での販売は現在も猛暑が続いていることで順調な売行きとなっている。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・第2四半期に入り、荷動きに若干の減速感がある。在庫に滞留傾向がみられるため、本格的な流通につながっておらず、繁忙期がずれ込んでいる。
		司法書士	取引先の様子	・不動産関連については、以前と比較して動きが落ち込んでいる。市街地の空地がますます多くみられるようになっている。
		司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の建築が依然として減少している。
	やや悪くなっている	建設業（従業員）	取引先の様子	・建築鉄骨製作者で、本州向け製品を扱う工場は潤沢な仕事量があるが、道内向け製品に限定される工場は仕事量が底を打ち始めている。製作単価も総じて低い水準で推移している。
その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）		受注量や販売量の動き	・一時的だと思っていた消費税増税による設備投資の減退が予想以上に長引いている。	
悪くなっている	—	—	—	
雇用関連	良く なっている	—	—	—
（北海道）	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	それ以外	・農業関連の収穫繁忙期を迎えているが、季節雇用の人材不足により働き手の確保に苦心している。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・人材募集が景気好調によるものか、人手不足によるものか、業種によってばらつきがある。個人消費関連は力強さを感じない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.2%増加し、54か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から7.1%増加し、54か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いている。非正規求人の占める割合は高いが、求人倍率は記録が残る平成元年以降で最も高い0.98倍となった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人倍率が高止まりし、企業の求人ニーズも高まっているが、求職者の動きが鈍い。求人が多数あるため、いつでも採用されると考えて、焦って就職活動をしていないとみられる。有名企業への応募は盛んなようであるが、あまり有名ではない中堅企業への応募は特に増えていない。
職業安定所（職員）		雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年を1.8%上回った。新規求職者数は前年を5.9%下回った。月間有効求人倍率は0.83倍となり、前年の0.79倍を0.04ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は44.8%と低く、求人者と求職者との間における職種や条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・人気のない業種の求人が多く、需要はあるのに採用人数が充足しない状況にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・6月以降、前年と比較して求人数が減少している。背景には、人が集まらないことに対する疲弊感もあるが、消費税増税によるコスト増も影響している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の募集広告の売上は前年から8%の減少となり、ここ数年ではみられないマイナス幅だった。収穫期を迎えた加工製造業の売上は大きく伸びたが、派遣、医療、小売が軒並み激減した。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・7月の就職件数が前年を下回っており、5か月連続で減少している。
	悪くなっている	—	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・5月は消費税増税前の駆け込み需要の反動もあり売上は前年を下回ったが、今月は店全体で前年の売上を上回る見込みである。宝飾、ブランド品などの高額商材の戻りはまだであるが、高級時計など前年の売上を上回るアイテムも出てきている。化粧品も当初の予測より早いペースで回復している。一方で、天候の関係で婦人服の売上が若干落ち込み気味である。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・祭りでは雨による多少の影響があったが、夏の最盛期として前年同様十分に稼げている。雨の影響で県の売上のトレンドは下がっているが、当店は全店ともに来客数もほぼ100%で推移しており、単価も前年以上に上げることができている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・運賃が上がったといっても、最初のうちはだめであったが、現在は客が切れ目なく乗っている。近距離客が多いがあまり変化は無い。
	やや良くなっている	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	競争相手の様子	・近所の大手ドラッグストアが閉店したことが多少影響している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・今月は来客数がやや良く、それにも増して客単価が改善している。3月以来しばらくなかった店頭の活況がようやく戻ってきた印象である。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・3か月前はまだ消費税増税前の駆け込み需要の反動があった。しかし、今月は一部高額商材を除いてほとんど影響はみられなくなっており、客も価値のある商品については確実に購入している。ただ一方で、物価高、ガソリン価格の高騰などの要件もあり慎重な購買意欲の動きがみられる。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・8月に入って客単価は回復しており前年比100%となっている。また、カウンターフーズ系のプラス一品の販売が好調である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前との比較では、来客数が多少増加している。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・イベントでの売上が好調である。夏物の最終戦もいつもより反応が良く動きも良い。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・全体では少し上向いているものの、地域格差が非常に大きくなってきている。地元の飲食店はお盆を過ぎて閉店を検討しているところが複数有るが、逆に東京への売上は増加しており、構造的な変化が顕著になっている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・8月に入っても天候の良さが大きな要因となり、特に飲食店への生ビールの動きが良い。また、お中元ギフトもほぼ平年並みとなっている。ただし、年々お中元ギフトのスタートが早まってきており、それに伴って落ち着くのも早いために少し伸び悩んだ感は否めない。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・地方なので帰省客が多く、ホテルやレストランを利用している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・気温の上昇や祭りの影響で人出が多く、それに伴い売上なども良い状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は夏休み、七夕、お盆とイベントが多い。募集型企画旅行やツアーの団体客が無い代わりに、中年以上の家族旅行や個人客が多い。家族構成も4～5名で客室利用の効率も良く、宿泊単価にもあまりこだわらない。忙しかったが雰囲気は明るい月となっている。
		観光型旅館(スタッフ)	販売量の動き	・来客数は増えているが、売れているのはほとんど低単価商品である。そのため、売上は増加しているものの結果として人件費などの経費が増えており、来客数ほど良くなったという印象は無い。
		都市型ホテル (経営者)	お客様の様子	・昼夜を問わずに家族単位での外食回数が増加している。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・平成26年度第1四半期に比べ、来客数、販売量共に前年比で増加傾向にある。
		その他サービス [自動車整備業] (経営者)	販売量の動き	・お盆商戦が終わり一息ついたところであるが、この夏は前年に比べて、成約件数、成約単価、来客数共に30%以上の伸び率となっている。
	変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・消費税増税の影響については、物販店、飲食店共にそんなに感じられなくなっているようであるが、苦境はなかなか解消されていない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・7～8月は比較的好天に恵まれて雨の量も少なかったため、飲食業はおしなべて好調である。その反面、物販、特にアパレル、繊維関係が少し弱くなっている。どちらもいえない状況となっている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・暑過ぎても寒過ぎても雨が降ってもダメである。
		一般小売店[寝具] (経営者)	販売量の動き	・打ち返しなどの布団づくりの仕事は徐々に増えてきている。ただし、二次製品、夏物は売れていない。
		一般小売店[カメラ] (店長)	販売量の動き	・低価格商材の動きが良くなり販売量は回復傾向にある。しかし、高額商材の動きが鈍く売上の回復はみられない。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・前半は天候による影響で人の動きが鈍かった。後半は気温が下がったことで秋物の定価品の動きが良くなったものの、婦人、服飾、生活雑貨は厳しく、全体ではほぼ前年と同じように推移している。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税後、ごく一部の層に高額商材の動きがややみられるものの、一般客の様子にはあまり変化は無い。
		百貨店(経営者)	販売量の動き	・夏物商戦に期待したが、衣料品のクリアランスセール動きが悪くほぼ横ばいとなっている。消費税のみならず年金受給率などの影響を受ける60歳以上のシルバー層の回復が弱い。しかし、高額商材は徐々に回復傾向にある。
		百貨店(経営者)	販売量の動き	・食料品、生活用品に関しては確実に回復傾向にある。しかし、百貨店が主力とする衣料品の動きが悪く、夏物衣料に関しては7月後半にやや回復が見られたものの、8月に入ってからは天候要因もあり動きが鈍い。
		百貨店(経営者)	お客様の様子	・来客数、客単価共に減少傾向が続いている。また、衣料品を中心に客の買い方は慎重であり消費に力強さが感じられない。
		スーパー(経営者)	来客数の動き	・8月上旬は暑かったものの中旬以降は雨が多く、夏物が売れていない。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・平均単価は前月までの推移より前年比で上昇しているものの、来客数は前年割れが続いている。また、原料高、仕入原価、電気料、労働単価などのコストがかさみ、価格転嫁を進めざるを得ないことから、客は買物に慎重になり買上点数は前月の推移よりも落ち込んでいる。ただし、全体としての推移は前月までと同じ傾向である。
		スーパー(経営者)	お客様の様子	・お盆期間中は帰省客が増加する期間であるが、客の動きに大きな変化はみられない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・第一次商圏内に競合店が新店として以降、来客数、売上共に厳しい。客の景気判断として買上点数は前年割れの状況である。生鮮食品は前年並みであるが、買い控えが必要な物以外は買わないため、加工食品などの買上点数が減少している。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・暑い夏に支えられて氷菓子、飲料が好調であるが、他は変化がなく夏祭りでもほぼ前年並みか若干下回った程度である。来客数は微減であるが客単価は若干上昇しており、全体的にほぼ横ばいとなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が続いており大変厳しい状況である。前半は前年並みであったがお盆中の天候が悪く来客数が少なかった。また、祭りの延期も売上に影響している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・毎年8月後半から秋物が動き出すが、今年は気温が下がっている割には秋物の動きが悪く、来客数も減少している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・燃料費、人件費、原糸などの価格高騰により仕入価格が上昇気味である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前半の天気が良く気温が高かったのですが、礼服は例年より客が多少戻ってきている。しかし、主力のスーツはクールビズの影響や、普段スーツを着ない人が、会社のイベントといった場面でスーツを着る機会が例年より少ないようであり、厳しい状況が続いている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・長雨が続き夏物商材の動きが不安定である。一方で秋物商材が動きはじめてきており、プラスマイナスゼロである。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・8月は天候不順による気温の低下により、クールビズの買い足し、サマーフォーマルの売行きが悪い。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数が伸びていない状況が続いている。また、客は目的の商品の購入だけにとどまっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節商材の需要が一段落して、来客数が減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・台風などの影響でお盆の前後あたりからエアコン、扇風機などの動きが少し止まっているが、テレビ、AV機器、パソコン、冷蔵庫などは前年をクリアしている。また、県内全体で来客数が前年比95%前後で推移している。
		家電量販店（従業員）	来客数の動き	・前年よりも来客数が少ないまま推移している。消費税増税前の駆け込み需要の反動が長引いているようである。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で購入した客が多く、その影響からの回復はなかなか進んでいない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・8月初旬の来客数は少なかったが、お盆が明けてからは少し増加している。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・例年だとボーナス商戦から半期決算へと入る需要期のはずだが、今年は今一つ顧客の購入マインドが上がっていない様子である。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・7月は消費税増税後に少しずつ回復していた売上が逆戻りしたように悪かった。8月は多少良くなっているものの、前年比で大幅に落ち込んでいる事には変わりはない。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による反動の影響で耐久消費財の買い控えが続いており、販売量が伸びていない。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・消費税増税から5か月が過ぎて、消費者が消費税に慣れて消費の冷え込みは改善しつつある。しかし、高額商材の販売が多い当店では、どうしても消費税分が高額になり価格に転嫁できなくなったり、値引き率が大きくなったりして結局は店の負担になっている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・前年と比較してガソリンの販売量が減少している。ガソリン単価の値上げにより、遠くまで車を使って出かけることが少なくなり需要が抑えられているようである。価格は徐々に低下しているが使用量の回復までは望めない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	販売量の動き	・燃料油価格の高止まりにより、8月の帰省や行楽において自動車での移動が減り販売量が減少している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・あまり良い材料はなく、来客数、競争相手の動き共に良いものがない。景気が良いと聞いているがまるで実感できない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・非常に雨が多く来客数が減少しているが、客単価は上昇しているため変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・お盆の期間は前年並みであった。しかし、その他の期間はガソリン価格の高騰や団体客の減少などの影響もあり、前年以下の状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・前年より動きが良かった来客数が中旬を過ぎた頃から急激に落ち込み、結果として8月合計での売上は前年並みとなっている。休日と平日の来客数の差が大きすぎて客の動きのトレンドが読めない。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・今月は全般的に天候に恵まれなかった。その分をお盆で盛り返してようやく前年並みの売上を確保している。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・レストラン、デリカ部門は相変わらず前年割れが続いている。レストランはフリー客の来店が減少しており予約状況も前年を下回っている。消費単価も前年を下回っていて厳しい。デリカ部門は生活に密着している関係もあり1週間における購入回数が減少している。唯一ビアガーデンだけは好調を維持しており、単月としては過去最高を記録する利用状況であった。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・お盆期間の宿泊は、前年よりもファミリー層の利用が多く、稼働率、同伴率共に前年を上回っている。ただし、レストランの売上に伸び悩みがみられている。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・月ごとの変動が激しく、安定していない。台風などの自然災害の増加も悪影響になっている。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・消費税増税後の買い控え傾向が続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・6月から前年を下回っている状態が続いている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・復興予算が執行されているものの、補助金は制約が多く、有効に活用されていない状況である。そのため、消費も低迷している。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の様子からも景気改善の決め手はなく横ばいである。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化が見られず改善されていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規に申込や契約をする客は増えていないが、解約する客が大幅に減少している。客の増減数からみると3か月前と比較して改善されている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客との会話からは、まだ消費税増税の影響が残っている様子がうかがえる。
		観光名所（職員）	お客様の様子	・来客数、客単価共に3か月前と特に変わりはない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数の少ない状況が続いている。夏休み期間も雨が多く非常に苦戦している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・3か月前から現在に至るまで来客数は前年同月比95%前後で推移している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客にアベノミクスの効果について質問したところ、あまり効果は無いと回答されている。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・前月と状況は変わらない。		
やや悪くなっている		商店街（代表者）	単価の動き	・夏物商戦は期待はずれに終わっている。天候のせいもあるかもしれないが、意外に客の財布のひもが固いという実感を持っている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・7月は猛暑で飲料、衣料などが好調であったため8月も期待したが、月初めからお盆過ぎまでの天候不順により消費動向に強いブレーキがかかっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きが少し停滞している。必要なものは買うがそれ以上の買上、プラスワンの商品がなかなか動かないので今月は苦戦している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・お盆の天候不良からなかなか回復しきれていない。来客数は増加したが、夏物セールの客単価と買上点数が落ち込んでおり、全館一斉に立ち上がった秋物も兆しはあるもののなかなか日々の前年クリアが難しい状況である。また、残暑の影響は毎年の事ではあるが、客が買う気になっておらず、こちら側も買いたくなる商品の提案もできていないのが現状であり、婦人服もさる事ながら店全体も厳しい着地となりそうである。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・まだ、消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響から抜け切れていない。
		スーパー（営業担当）	販売量の動き	・競合各社をみても前年以上にチラシ価格を強化しているが、来客数、買上点数共に増加しない状況が続いている。賃金の上昇は一部の企業に限られており、消費税増税の影響がじわじわと出て不必要な支出は抑えられている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（営業担当）	お客様の様子	・お盆や中元商戦は相変わらず低迷しており、1人当たりの客単価、買上点数が下がっている。その一方、付加価値のある高単価品が売れており、少しぜいたくをするものの、余計な物にお金は使わない傾向がある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税後から来客数の前年割れが大きくなっている。8月も前年比マイナス6%と低調に推移しており、前月より3%ほど悪化している。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競争店の出店が加速しており、既存店の売上が減少している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が良くない状況が改善していない。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・消費税率8%の影響なのか単価が少し下がり気味である。お盆を過ぎたあたりから顕著になってきており、なかなか厳しい状況である。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・天候が不安定な日々が続いており、主力の飲料部門を中心とした夏季商材の売上の伸びに繋がらずに客単価に影響が出ている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・提案活動をしているものの、見込みの無い状況である。客は買えないのではなく買わないのであり、購入を急いではいない。乗りたい車も無いのでお買得感を感じていない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ガソリン価格の高騰が自動車の販売減に直結している。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	お客様の様子	・新規の問い合わせなどが激減している。徐々に消費税増税や商品単価の値上げの影響が来ているようである。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・天候不順に泣かされている。今冬の週末を狙い撃ちした大雪といい、今まで考えられなかった要素で売上が左右されている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・4～6月は、消費税増税の影響による急激な悪化を懸念していたがさほどの停滞はみられなかった。しかし、7～8月ではなんとなくブレーキが踏まれており、天候不順の影響もあるのかじわじわと駄目になっている感がある。今後に不安を残す夏である。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・良いときと悪いときの来客数の差が激しく、全体としてはあまり良くない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・海水浴シーズンで内陸部から海のあるエリアに遊びに行く人が多く、来客数が伸びていない。また、8月は夏祭りが多く露店で食事をすませる人が多いことも、街の飲食店においてマイナスの要因である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・法人客、団体客の利用は前年並みである。しかし、相変わらず個人客のレストラン、宿泊などの利用は前年を下回っており、予約状況も回復には至らずやや厳しい状況が続いている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・今月に入ってから売上の伸びが3か月前と比較して鈍化してきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・お盆でお金を使ったせいか、天気の良い日は歩き、雨が降っても近場のみで移動する様子が見える。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・中旬から下旬にかけて天候が不安定になり、屋外施設として影響を受けている。特にお盆近辺の悪天候が響き、来客数は前年比で約10%下回っている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	来客数の動き	・前月に続き今月も供給数が前年を下回っている。また、消費税増税直後から受付数が減少し続けている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・食事時間である夜の人出が非常に少なくなっている。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、新製品のアイテムが減少して一般消費が落ち込んでおり、相当厳しい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・消費税率が8%になり、更に田舎の場合は給料やボーナスの増額も無いため、そういう面ではかなり落ち込んできている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・クールビズが定着しており、8～9月は背広のジャケットは蒸し暑くて着たくないようである。秋の準備にもまだ早く、レジャーにはお金を使うが衣料関係への購買意欲が無い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・一般整備、車検共に月を追うごとに落ち込んでいると多くの取引先が話している。天候が不順で例年に比べて気温が上がらなかった事も要因の一つだがそれだけでは無いようである。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・夏ギフトも帰省商戦も不発であり、財布のひもが固くなっているようである。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・例年より気温が上がらず、サンダルを始めとする夏物商品の動きが鈍い。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・夏物の売行きが非常に良くない。また、イベントなどのTシャツも例年に比べると注文数が少なく、全体的に消費は低迷している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・お盆の時期は、例年では盆踊りや花火大会などで浴衣の着付けやセットの予約が多くあったが、最近では自分で着付けをして美容室にお金をかけないようにしている人が増えている。
企業動向関連（東北）	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・部品関連のものづくり企業からの受注が、生産能力一杯という状況まで入ってきており新たな話もきている様子である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・新規製品開発が活発化してきている。開発委託の頻度が増加し、その納期の前倒し要求も厳しくなっていることから上向きにあるとみている。
		建設業（従業員）	競争相手の様子	・大型除染業務、海岸、河川堤防、各自自治体の造成工事といった各種公共事業などの受注者が決定してきており、受注量が上向いてきている。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・復興関連を含め受注が順調に推移している。
		公認会計士	取引先の様子	・消費税増税の影響で小売り関係が一時落ち込んでいたが、7月以降少しずつ持ち直している。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・新規客の訪問などもあり上向き傾向である。
	変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・贈答用のものは、注文数、単価共に前年並みである。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月の前半は七夕を含めて大きく売上を落とされたものの、10日以降はお盆の帰省により前年をクリアしている。ただし、月のトータルでは前年を少し下回るものとみている。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・お盆の反動で販売量は計画に少し届いていないものの、トータルで見ると着地点はほぼ計画通りであるとみている。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量は前年と比べても変化はなく、例年通りの動きとなっている。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・良くなる気配はあるものの、このところ極端な天候異変により足元をすくわれている。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減により、住宅部材の需要が減少している。したがって、価格が低下して収益も悪化している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・震災特需的な仕事がまだ残っており若干の売上増にはなったが、その分を差し引くと大変厳しい状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は、国内は消費税増税後の反動減の影響からの戻りが非常に鈍い状況にある。アセアン地域は自動車の需要に陰りが出てきており、日本からの輸出部品の減少により輸出環境が悪化してきている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響から落ち着きを取り戻し、地域にも活気が出てきており受注もある。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・盆明けからの物量増に期待していたが、現実はそのようになっていない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の反応は相変わらず低価格志向ではあるが、このところ条件次第での受注もありうる傾向がある。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・不動産関連の需要が出てきている。
		コピーサービス業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・売上は横ばいであるが利益が大幅に下がっている状況であり、競争が一時期よりも激しくなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他非製造業 〔飲食料品卸売業〕 (経営者)	受注量や販売量の動き	・地元向け、首都圏向け共に出荷は堅調である。地元は飲食店が伸び悩んだものの、その分を駅、空港の土産店、旅館、ホテルがカバーしている。
		その他企業〔企画業〕 (経営者)	取引先の様子	・復興に伴う沿岸部の住宅会社、地場工務店などは波があるものの受注の確保ができており、内陸部のしかも都市部から離れている地域では建築マインドが少ない。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同 関連産業(経理 担当)	競争相手の様子	・受注残高が10%程度減少している。同業他社もかなり落ち込んでおり、金額の小さな仕事に手を出しているため競争が激しくなっている。
		土石製品製造販 売(従業員)	受注価格や販売 価格の動き	・最近の大雨や台風の影響で、道路補強工事などが思うように進んでいない。また、震災以降の受注価格もまだまだ安い状態が続いている。
		輸送業(従業 員)	受注量や販売量 の動き	・業界的には回復傾向にあるものの、首都圏など大都市への集約化が進んでおり、地方は取り残されつつある。
		金融業(広報担 当)	取引先の様子	・売上が伸び悩んでいる。
		広告代理店(経 営者)	受注量や販売量 の動き	・全体的に仕事量が減少している。
	悪くなっている	経営コンサル タ	取引先の様子	・夏休み終了間近の商業集積地はどこも閑古鳥が鳴いている状況である。
広告業協会(役 員)		それ以外	・広告の落ち込みは2～3か月は続くが、その後は回復に向かうだろうと予測していた。しかし、大型小売店は戻っている様子があるものの、自動車、不動産は広告の出稿が著しく減少しており、7～8月も依然として戻らない状況が続いている。	
		その他非製造業 〔飲食料品卸売 業〕(経営者)	取引先の様子	・取引先では前年比で売上が増加している所や利益が向上している所は皆無に近い。とにかく毎月ごとに売上が悪くなっている、1日の来客数や売上そのものも1割ぐらゐ減少しているという話が非常に多い。
雇用 関連 (東北)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ここ1か月、市内の300名以下の企業で営業職の募集が増えてきている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人は13か月連続して増加している。4月からの求人倍率をみると、平成20年の米国の大手金融機関の破たん前に戻っている。特にサービス、保安、建設業の人手不足が顕著である。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	それ以外	・行政機関の全国一斉入札が終了し、当社は既存業務の4県のうち2県を失ったが、残りの2県において既存業務に加えて同規模の追加業務を落札している。全体としては微減でありほぼ現状維持である。
		人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・求職者が前年より減少しており、求人と求職のミスマッチがある。
		新聞社〔求人広 告〕(担当者)	雇用形態の様子	・かなりの業種で人手不足感がある。しかし、正社員として採用するのは限定的であり、企業は景気の回復にまだ懐疑的のようである。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は引き続き前年同月を上回っているものの、3か月連続で1万人を下回っている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数、月間有効求人数共に、多少の増減はあるがほぼ同じような数値で推移している。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は製造業、労働者派遣業を中心に引き続き増加している。しかし、労働者派遣業については応募が少ない状況となっている。
		職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・建設関係、水産加工関係では、人材不足、作業員不足で受注を増やせていない。多くの事業所で設備があるのにフル稼働ができずに生産量を増やせない状況が続いている。また、資材や燃料費の高騰による負担感が大きいという事業所も多い。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数、求職者数共に微減が続いている。求人倍率も安定しており、良くなったり悪くなったりという状況ではない。
		民間職業紹介機 関(職員)	雇用形態の様子	・相変わらず求人状況は復興関連、介護福祉、運送関係に偏っている。
やや悪くなっている	アウトソーシ ング企業(社員)	それ以外	・東日本大震災関係の仕事が減っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・このところの異常気象、大雨などの影響で消費者のマインドが下がっている。かつ、求人に関しても業種によっては求人数が前年に比べて減少している。特に流通を中心にアルバイトを含めて求人が減少しており、かなり深刻になりつつある。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・求人広告は増加しているが人が集まらない。都会で収入の良い仕事へ人が流れているようである。
	悪くなっている	—	—	—

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向 関連 (北関東)	良くなっている	一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・前年同月に比べ売上、来客数共に大幅に伸びている。	
		商店街(代表者)	来客数の動き	・夏休み商戦は中盤から後半まで天気に泣かされたが、大河ドラマ決定による人気で曇り空は振り払った形である。	
	やや良くなっている	百貨店(店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要後に低迷していた化粧品や日用品などの動きが戻ってきており、宝飾、呉服を除く大部分の商品群が前年の売上を超えるようになってきたからである。	
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・消費税増税後の直近と比べると少しは売上が上がってきている。前年と比べても9掛けの数値である。	
		スーパー(統括)	販売量の動き	・食品は、天候の安定で行楽地店舗が好調であることや野菜、豚肉の相場高もあり、既存店売上が前年同月比を5.5%上回って推移している。衣料品も夏物の最終処分と秋物が好調で、前年同期を超える販売量である。	
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・夏休みのため、1日平均100人以上、来客数が増えている。	
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数が戻ってこない。	
		乗用車販売店(統括)	来客数の動き	・消費税増税の影響が薄れてきている。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(従業員)	販売量の動き	・2～3か月前はマイナスだった販売量が前年並みになってきている。	
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・宴会参加の一部の客の様子が明るくなってきている。業種や会社によって内容の明暗が分かれてきているように感じられる。	
		観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・消費税増税後の影響がようやく薄れてきた。	
		都市型ホテル(営業担当)	販売量の動き	・4月の消費税増税後の動向が懸念されていたが、県内の3ホテルいずれも8月は稼働が上向き傾向になり、ある程度は消費税の影響を感じられないような稼働となっている。3か月前と比較するとやや良くなっている。	
		都市型ホテル(副支配人)	来客数の動き	・7～8月の来客数、単価は前年を上回っている。売上自体も特需的な団体客も含まれているが、団体、個人共に好調に推移してきている。	
		変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・猛暑で客足が伸びないのは例年のことだが、お中元の贈答も少なく、その後のバーゲンへの反応は薄い。
			商店街(代表者)	単価の動き	・学校への定期的な納品物が秋に4～5%値上げとなり閉口している。各学校共に、消費税増税後の更なる値上げは困ると異口同音に返ってきている。たとえ100円でも値上がりは困るという状態が続いている。
商店街(代表者)	来客数の動き		・毎年8月は売上、来客数共に悪い月であるが、月末になってやっと前年に追いついた状況である。暑い日や天候が不安定なためか街の中に人がいない。郊外の大型店には多くの人がいるが、買物袋を下げている人はあまり見かけない。		
一般小売店〔精肉〕(経営者)	お客様の様子		・前月に続いて真夏日と猛暑日が続く、客は熱中症を考えあまり外に出てこない。納涼祭や花火大会などの行事には行くが、今年は人出が減っており、活気がない。		
一般小売店〔家電〕(経営者)	販売量の動き		・8月の天候不順が商品の動きを悪くしている。客の消費意欲も損なわれているようである。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔青果〕(店長)	販売量の動き	・お盆の売行きは年々悪くなっているが、特に今年はほとんど平日と変わらないくらいであった。墓参りも花だけということで、果物の動きがかなり悪くなっている。
		百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・婦人衣料では一部秋商材に動きが見られるものの、店トータルとしては前年並みの売上額で推移している。消費税増税の影響は依然継続している。
		百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・婦人衣料が極端に不振で、それ以外は前年と大きく変わらない。客単価がやや前年を下回っており、不要不急のものは買い控える、または同じ物でも安価な方を購入するといったシビアな行動がみられる。
		百貨店(店長)	お客様の様子	・品質の良い物は高額でも購入されているが、物販業態全般では売上、来客数共に前年を5%前後割っている。飲食、喫茶業態は堅調に推移している。
		スーパー(経営者)	競争相手の様子	・競争環境は変わらない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・購入量がとても少ない客もいれば、とても多く買う客もいる。客によって購入意欲が違うことが目立つ。
		スーパー(商品部担当)	販売量の動き	・天候に左右される商品以外の販売個数や買上単価などに大きな変動がない。また、8月中旬より天候が悪く苦戦している部分もある。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・例年夏の時期、特に8月は良いのもっと高い売上になるはずだが、今年は雨がが多く、8月後半はやや気温も低かったため、残念ながら悪い状況となっている。
		コンビニ(店長)	お客様の様子	・今月は天候に左右され、大きく天気が荒れたために売上が若干良くなかったが、それがなければ特別な変化はなかった気がしている。
		衣料品専門店(販売担当)	来客数の動き	・3か月前と比較すると、前月は若干ボーナス効果もあったが、今月は暇なニッパチの8月なので予想どおりの状況である。消費税増税の影響で婦人衣料は完全に我慢の対象になってしまっているのも、かなり悪い。このままどうなるかというくらいのどん底である。
		家電量販店(営業担当)	お客様の様子	・客の購買動向に目立った変化が見られない。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・新車の販売台数が落ち込んでいる。中古車に関しては、受注はあるものの低い価格帯のものが多く、売上も利益率も振るわない。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・大企業及び一次下請けまでは数億、数十億円単位の設備投資を行っているが、やはり二次以下の下請は微々たる設備投資しかできないようである。要は二極化という状況で、お金が円滑には流れていない。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・自動車の販売台数は3か月前より回復していると思うが、例年同期よりは少ない。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・8月になっても4月以降の受注減が回復していない。
		乗用車販売店(管理担当)	販売量の動き	・食品関係などの生活必需品は消費が回復しているが、天候の影響により一部野菜、果物類は不作で高騰している。ガソリンの高騰は一時的に止まっているが、今後は円安が緩やかに進み影響が出てくる。
		乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・毎年のことだが、8月はお盆時期ということで新車、中古車とも販売が鈍い。消費税増税後の反動減と同じくらいで、あまり景気は良くない。
		自動車備品販売店(経営者)	単価の動き	・販売量はやや戻って来ているが、販売量、人の出入りの数が今一つで、まだ気運が高まっていないと感じる。
		住関連専門店(店長)	来客数の動き	・来客数に変化はないが、買物に慎重で価格にシビアになっているように感じる。
		住関連専門店(仕入担当)	来客数の動き	・客数のマイナスを価格の上昇でカバーしている状況である。客数については今後も同様の傾向が続くと考えている。
		その他専門店〔燃料〕(従業員)	販売量の動き	・消費量に大きな変化はない。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・来客数が毎月20~30人ずつ減少している。客の利用範囲が非常に狭くなっていると感じている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・人通りはあまり多くないままだが、いづらか宴会の予約が入るようになってきた。8月は例年あまり良くないので、秋から上向いてほしい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きと客の様子からの判断である。消費者がどのようなことを考えているのか、なかなかつかめない状態である。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・夏季繁忙期であるが、猛暑、雨天などの天候異常が観光客の来訪に影響している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・商品の内容よりも金額で動く客がまだ多い。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・春から夏にかけては前年度より実績も良く順調であったが、夏から秋の受注が良くない。少し低迷している。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・夏の旅行シーズンにもかかわらず、販売量に顕著な伸びが見られなかった。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・月半ばより少し動きが良くなり、前年同月と比べて6%の増収となっている。
		タクシー（役員）	お客様の様子	・客の反応から変わらないと判断している。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・解約はあるものの減少傾向にある。しかし、新規加入増加はない。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・客の様子を見る限り、お盆明けはやや消費抑制傾向にあるように感じるが、全体的には3か月前と何ら変わっていない。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・台風や局地的な雷雨など、悪天候の影響を大きく受けており、夏らしい天気の日がほとんどない。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購入単価共にそれほど変化がみられないからである。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・美容院は競合店が多く、激戦で、低料金店舗のお店も増加しているため売上は低迷している。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	来客数の動き	・来客数については各テナント会の報告でも依然横ばいということである。単価、販売量共に横ばいなので変わらない。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	お客様の様子	・客の動向だけでは判断しにくい、イベントによっては定員に満たないことがある。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・仕事の依頼数は増えており、人手が足りず下請に頼む量が増加している。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・建築希望の客は結構いるが、建築単価の高騰によって実現しないのが現状で、設計しても見送ることが多い。そのため景気の動向はまだ何とも言えない。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・3か月前と比べても何の変化もみられない。週末の打ち合わせで来店する客も少ない。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・入込客が減少気味である。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・土地等の引き合いは若干増えたように思うが、実際には成約に至らない。まだ値段が下がるだろうと客が値引き交渉をすることが理由である。貸店舗、アパート等については、アパート関係はやや飽和状態で空き家が目立つ状況で、家賃も下がったままであり、貸店舗もまだシャッターが下りたままである。
	やや悪くなっている	スーパー（店長）	販売量の動き	・お中元のピークに天候が悪かったことや、気温が低く盛夏商材が売れなかったために契約していたすいかなどが大量に廃棄となり、売上以上に利益が厳しい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上が97%、来客数が96%とやや不調である。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・シーズン商品のエアコンの動きが悪く、前年割れの90%で終了である。
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・買上点数の微減傾向が続いている。景気の失速感とまでは言えないが停滞感を感じる。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・災害が増え、客が財布のひもを固くしているように感じている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・8月は良い時と悪い時の差が大きく、本当に忙しい時があると思えば、売上がゼロというような暇な時もあり、大変苦戦している。一般的に大会社の景気は良いかもしれないが、当地の中小企業は非常に苦しい。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税に伴う駆け込み需要の影響から、新築などの販売数が伸び悩んでおり、売上にも影響が出ている。消費の鈍化の影響が少なからずある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・この夏は雨の影響で来客数が伸びず、それに比例して売上も落ち込んでしまっている。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・台風接近による週末の降雨が影響し、3か月前と比較すると来客数が伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・県外来場者から、ガソリン代、高速料金値上げで来場が厳しくなったという声がよく聞かれるようになり、もっとプレー代が安くならないかという問い合わせが増えている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・7月から客の問い合わせ、来客数が減少し、8月に入ってから休みもあってかなり停滞している。消費税増税の影響は落ち着いたが、地方においては不景気感はまだまだあるようである。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・学校相手の仕事が多いので、毎年8月は悪くなるが、ここまで悪くなるとは想像もつかなかったというくらい今年が悪い。
		一般小売店〔衣料〕（経営者）	販売量の動き	・8月は毎日のように雨が降った。雨が降ったり晴れたり気温の変動があると衣料品が売れるかと予測していたが、そういうこともなく悪い状態が続いている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・映像関連のテレビは若干前年を割る程度であったが、季節商材のエアコンが90%と振るわず、冷蔵庫、洗濯機も95%と振るわなかった。パソコン関連も90%と不調である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・とにかくタクシーを利用する客が少なすぎる。昨日午後から駅に入ったら、客を乗せるまでに3時間以上かかった。電車からかなりの人が降りるが、皆素通りである。
通信会社（経営者）	販売量の動き	・販売量は東日本大震災後の3年間下降を続けており、いまだ止まる気配もない。		
企業動向関連 (北関東)	良くなっている やや良くなっている	—	—	—
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・部門間によって受注量や販売量のばらつきがあり、良くないところの受注量減は大きいですが、ある程度それをばん回できるだけの量が入ってきているので、やや良いという判断である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特注品の受注に動きがある。また、新製品投入による効果も出ている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量の大きな伸びはないが、新規の引き合いが増加傾向にある。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の輸出量が増加傾向にある。	
	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・当社は公共工事主体の建設業である。公共工事の発注額は前年比10%増、当社の受注額も今のところ同8%増であるが、ここにきて発注が減少してきている。民間工事は消費税増税前の駆け込み需要の反動で、前年より大幅減になっている。受注はあるものの首都圏の建設が活況のため、材料や人件費が上がり、利益の計上が厳しくなっている。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今月は大きな受注があったため、前年に比べ大分受注が増えている。	
	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・消費税増税による消費の落ち込みも一服した感がある。また富士山の世界遺産登録の影響で観光客が増加している。	
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い、商談数、受注量共に増加傾向にある。ただし、価格は相変わらず厳しく、収益の改善にはまだ時間がかかる。	
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・10月ごろになると動きが出てくる。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・コンクリートミキサー車などの特装車両は、納品まで1年以上待つ状態が続いており、更なる増産体制となっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の状況としては8月がそれほど落ち込まなかったということと、同業者が仕事をやめたり廃業した関係で、元請会社から当社に続けて対応してもらえないかという話が来ているので、それが成功すれば仕事量は増える。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・夏季休暇以降の取引先受注は少し下降傾向にあるが、9月に期待している。
電気機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・多種、多機種、小ロットと、選択する余地はないが低水準ながら何とか生産を確保、維持している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		精密機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共にやや持ち直し感はあるものの、大きな変化はなく、厳しい状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・この2～3か月はまずまずで、取引先の様子も販売量の動きも大きな変動はない。2～3か月先はちよつと分からない状況である。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・環境装置の受注、生産、納品は大変順調である。太陽光発電の半メガソーラーは3月から目標通りに発電、売電しており、11月に第2の発電所の工事完了予定である。その後の3番目以降はパネルの指定もあり、納品が年明け後から夏までかかり、完成が遅れる予定である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・個人消費の回復が鈍い。
		金融業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・市場のパイが少なくなっているために非常に競争が厳しくなっている。そういう中でなかなか価格が上げられず、利幅が取れないという状況である。また、電力、原油の値上げが響いている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・初旬は暑さが続き、夏物用品の売上は順調に伸びていたようだが、お盆期間中は雨が降り、百貨店、大型店の売上は軒並み前年を割ってしまったようである。その後も回復は鈍く、8月は天候による影響が大きい。チラシ出稿量は前年比94.7%で低迷が続いている。
		司法書士	受注量や販売量の動き	・世界遺産登録による動きは一段落し、この秋どう動くかは分からないが、今のところは少々静かになっている。観光客が来ているので、飲食店だけは良いようである。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・飲食店、食品系小売業、食品工業関連の運送、物流等の業況が思わしくない。当初、消費税増税後の反動減はそれほどでないとみられていたが、ここに来て不調を訴える企業が少なくない状況である。また、観光地への入込数についても、天候不順が長引いた影響などから伸び悩んでおり、宿泊業、飲食店等の関連産業の不振も見られる。
		社会保険労務士	取引先の様子	・売上等が多少伸びている事業所もあるが、原料価格の上昇など、悪影響の方が大きい事業所もある。
		やや悪くなっている		食料品製造業（製造担当）
輸送業（営業担当）	取引先の様子			・大雨等の天候不順により、ガーデニング、レジャー用品等の輸送量が前年より落ち込んでいる。また、大雨により肥料が流れ、土壌の栄養が不足したことで野菜が小さくなり、出荷量も少ないので物量は前年比15%減と落ち込んでいる。
不動産業（経営者）	それ以外			・設備投資や細かな備品購入に対し、消費税増税後は特に割高感があり、慎重にならざるを得ない状況にある。
不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き			・天候や取引先の都合で今月の受託業務を行わないことが重なったため、売上が減少している。
広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き			・例年どおり、8月は宣伝広告の出稿量は少ない。
悪くなっている		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月末に秋商戦向けの大型展示商談会が開催されたが、来場客が少なく商談も低調で、売上は前年を下回っている。6月以降の低迷が尾を引いて、秋口商戦のスタートが切れない状況である。
雇用関連 (北関東)	良く なっている やや良くなっている	—	—	—
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・建設、建築関係は公共事業の一部と住宅の増改築、造成関係の一部が活発で、それが求人数にも求人内容にも出ている。お盆の長期休暇があったため、車の販売等、製造業は全般的に前年と比べて横ばいか、若干落ちているというところである。夏物衣料等と食品関係は大体横ばいである。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・自動車部品関連と食品で麺類関連の派遣求人が増えている。
		人材派遣会社（支社長）	採用者数の動き	・間接雇用から直接雇用へと雇用形態が偏ってきている。同時に求職者側の意識も直接雇用へ傾いている。志向が偏っても、需要は変わらないため、今後は採用対象にならない直接雇用の希望者をどう活用するかが問題となりそうである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・例年8月は季節的に求人が増加するが、今年はやパート、アルバイトの他に正社員募集が求人誌広告、チラシでも目立っている。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・働く意欲が薄れている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が前年同月比で増加しているが、その増加幅が徐々に減少し、ほぼ横ばいになっている。景気は足踏み状態である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・状況にあまり変化はないが、一部の職種、業種で人手不足感が大きくなっているように感じる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前と比較すると求人数は増加しているが、前年と比較した場合は15%程度減少している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をつねに引する製造業の正社員求人に関し全く変化が見られない。
		学校〔専門学校〕（副校長）	求職者数の動き	・業種、職種によって求人の有無がはっきりしているように感じる。特に、販売職に就きたいと思っている生徒が多いが、求人は少ない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子	・今まで忙しかったが、これから3か月間は少し暇になる予定である。また来年の夏は良くなる。
	悪くなっている	—	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (南関東)	良く なっている	設計事務所（所長）	お客様の様子	・契約物件の作業中で、取入的には安定している。
	やや良く なっている	一般小売店〔家電〕（経理担当）	単価の動き	・エアコン全体の台数はそれほど伸びなかったが、値段の高い商品が売れたので粗利が取れている。しかし、映像関係のテレビ、ブルーレイはほとんど売れていない。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・お盆を過ぎても商品は動いている。お盆前よりやや高額な物が売れている。マンションを購入した人や結婚する人がいるからだろう。
		百貨店（広報担当）	単価の動き	・一般の客の購買行動が消費税増税後、徐々に回復傾向にあることに加えて、中国、台湾、香港などからの旅行者の免税売上が急激に伸びている。また、高級時計の特別販売会では、百万～千万円台の高額品が好調で、6日間でアベノミクス効果を楽しんだ前年の売上7億円に迫る勢いにある。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・服飾雑貨、特に、化粧品の売上が復調している。消費税増税の反動減の影響はほぼ解消され、前年比2ポイント回復している。食料品は前年割れが続くものの、改善傾向がみられる。要因としては、中元商戦で苦戦した影響が解消される一方で、生鮮品、和洋酒等カテゴリー別では売上が増加しているものもみられる。生鮮品については、天候不順による商品単価の上昇も売上を押し上げている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・消費税増税以降の2～3か月は購買を控えようとする客が多く、来客数がなかなか前年を超すことがなかったが、直近では前年を超えるようになってきている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・夏から秋へライフスタイルやファッションが大きく変わるタイミングでもあるため、下見なども含めて秋商材への関心が大きい。化粧品なども好調に動き始めている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・3か月前は売上が前年割れしていたが、前年並みに戻りつつある。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減の大きかった品目も、徐々に回復に向かっているが、一部の高額品はまだマイナス幅が大きい。一方で、消費税増税の影響が少ない衣料品は天候不順の影響で苦戦し、全体としては緩やかな回復基調になっている。
百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・消費税増税直後の3か月前と比べると駆け込みで購入した貯蔵品も減り、小売は回復傾向にある。しかし、完全に戻ったわけではなく、財布のひもは固いまままで推移している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売管理担当）	お客様の様子	・消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減の影響が色濃く残っていた3か月前より、来客数や客の買上指数であるヒット率が回復しており、購買動向は改善されている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年を超えて現在、101.6%で推移している。また、客単価も前年と比べて101.8%、金額では約67円増えている。来客数と単価が上がった要因で売上が良いものの、点数が前年を若干下回っている。客は良い物は買うが、安い物を並べても本当に必要だと思う物以外は買わない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ここ最近の暑さが相当影響している。かなり暑いわけではないが30度以上の気温になると、5%前後増で売れている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑で良い時もあれば悪い時もあるという具合でやや上向いたが、天候不順のため、これから先はどうか分からない。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・消費税増税後の反動減の影響はほぼ解消したとみている。在庫処分等のクリアランスセールの実施で値ごろ感が出ているため、来客数、客単価共に前年を越えている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・中国の食品偽装問題や衛生管理の問題などもあり、先月から8月にかけて、一般的に商品単価の高いものでも国産や安心したものにはお金を払っている感じがする。客単価も若干だが上がっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・祭りなどで街に多くの人出があり、当店にも足を運んでくれたのではないかと。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・予算を上回る加入が続いている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・8月は加入目標の達成が予想より早回った。イベントなどの施策も予想どおり獲得につながり、好調である。この状況は続いており、9月も好調が見込まれる。
		ゴルフ場（支配人）	販売量の動き	・7～8月の暑さにもかかわらず、予定以上の来場者と収益がある。
		ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・以前より集客しやすくなっており、来客者の表情から明るさも感じられる。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・参加している顧客先のプロジェクトが具体的に動き出し、提案資料を提出できるまでになっている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・民間の新規の建築相談が特用ではあるが、具体化に向けてあった。やっと動いた感じである。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・住宅の販売価格が上昇している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の120%で達成し、久しぶりに景気が良い。ただし、前月までの販売量のずれ込みにより偶然、今月だけ販売量が上がったとも思えるため、3か月前と比べると景気が良くなっているとは言いにくく、やや良くなっていると判断した。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・店舗前の通行量はそれほど変わっていないが、来店客が少ない。客は他店との比較をしているようで、来店がすぐに買物につながるかというとなかなか難しく、あちこちリサーチして当店の値段が安いとなると戻ってくるという状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・夏が暑すぎて客も大変困惑しているようである。最近、少し良くなっているが、とにかく客の出足が悪いため、売上が上がらないのが悩みである。
		商店街（代表者）	それ以外	・7月はここ数年の中でも良い数字が出ていたが、8月は天候不順もあり、良かったり悪かったりの乱高下がある。クレジットカードの取扱高はさほど悪くはないが、来街者数の増減は激しい。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	販売量の動き	・相変わらず来客数は非常に少ない。しかし、リフォーム関係では仕事もあるので、良くなるのか悪くなるのか分からない。以前と比べると変わっていない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・異常気象の関係もあると思うが、日中は外を歩く客が非常に少ない。車で横付けして駐車場から涼しい店内に入れる環境の店が受けているのではないだろうか。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	単価の動き	・良い物を買える客と、単価の低い物しか買えない客とがはっきり分かれて二極化されており、景気がどうなのか判断できない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 [茶] (営業担当)	販売量の動き	・大口の注文があり売上は大きく伸びたものの、来客数は減少している。
		百貨店 (売場主任)	お客様の様子	・富裕層は給料増もあり、比較的購買意欲は高いが、中下流層は給料増もなく、ガソリン価格などの高騰もあり、生活防衛に走っている。
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・来客数は前年を超えているものの、売上は前年並みぐらいのところまでで100%を超えない状況が2~3か月続いている。
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・消費税増税の影響は薄れつつあるが、天候不順に伴う来客数の減少が大きい。近年目立つようになった気象警報、注意報の発令による行政、マスコミ等からの外出自粛の呼びかけの影響も出ていると思う。
		百貨店 (副店長)	販売量の動き	・夏場のクリアランスや処分セール勢いは今一つであるが、正価品の動きは鈍くない。
		スーパー (販売担当)	単価の動き	・競合店との価格競争もあり、ナショナルブランドなどの価格を下げざるを得ない状況にある。客の買上点数は前年を上回るが、平均単価が下がっているため、1人当たりの買上額をみると、なかなか前年に達していない状況が続いている。
		スーパー (経営者)	来客数の動き	・来客数は相変わらず減っているものの、1点単価、客単価が上昇してそれを補っているため、何とか売上は維持している。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・単価、来客数共に横ばいだが、点数の減少が続いている。客は冷静に価格帯を見極めている感じで、財布のひもが緩くなるにはしばらく時間がかかる。
		スーパー (総務担当)	お客様の様子	・消費税増税によって6月までは落ち込むことは分かっていたが、7~8月もあまり売上が回復していない。特に良くないのが頻度性の高い商品、日用品である。衣類であれば肌着等の物であり、食品に関しては乾物、調味料を含めた物である。天候予見に左右された部分もあるが、売上は9掛け程度になっている。
		スーパー (営業担当)	単価の動き	・消費税増税後の落ち込みは払しょくされている。前年と比べても伸びており、現在のところ堅調な消費の動きを示している。
		スーパー (仕入担当)	来客数の動き	・圏央道が開通し、今年のお盆期間は帰省する人や旅行に行く人も増えたが、当県に帰省、旅行で来る人も増え、前年度を2%ほど上回っている。
		スーパー (仕入担当)	販売量の動き	・気温の変動が激しいため、売れる商品が固定しない。競合店が増えたが、競合店自体も売上が伸びていないため、価格訴求に流れてしまっている。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・本来であれば7~8月は来客数がピークに達するが、ピークに変わりはないものの、全体的に山が大きくない。天候不良や様々なところで災害などが発生していることも原因である。なるべくマイナス要因を考えないように商売しているが、心配事のある客が多いような感じがする。これから先のことに関しては何とも言えないが、変わらないのではないかと。
		コンビニ (経営者)	来客数の動き	・半年以上、前年比104%以上を推移しているため、安定している。
		コンビニ (商品開発担当)	来客数の動き	・客単価は上昇傾向にあるものの、来客数が減少している。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・今月25日ごろまでの猛暑とその後低温で客は外出を控えている。食品以外の商品には慎重で、我慢しているようである。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・天気に恵まれて来客数が前年を超えたため、売上も前年を超えている。夏物の処分ができた。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・買い控えによってスーツ、フォーマルを中心とした重衣料の来客数が減少している。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は先月、ボーナス支給月ということで良かったが、今日は3割減と悪い。
		乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・成約に至らないお客が多い。新車を検討しているようだ。
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・予想より消費税増税による影響が長引いている。他社との競合が激化していることもあり、厳しい状況である。
		乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・依然として購買意欲の向上にはつながっていないように感じる。当社の販売状況も目標に達していない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン(副支配人)	来客数の動き	・宴会予約の推移は芳しくなく、前年を維持する程度である。
		高級レストラン(支配人)	単価の動き	・客単価も特に上がらず、来客数等も変わらない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べると前年よりは良くなっているの で、決して悪くはない。来客数も通常どおりで前年より上回っている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・フレックスタイムの会社も多く、12～13時以外の来客も多いが、来客数は横ばいである。
		一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・前年比でみて、3か月前の5月1～27日までの既存店での売上は、104.8%、来客数101.0%であった。今月は、1～27日までの売上が104.1%、来客数102.6%という結果である。
		一般レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・7～8月が良くなるとテレビでは報道されていたが、夏休みやお盆休みで遠出や海外旅行に行く人はお金を使うだろうが、基本的には良いとは思えない。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・夏休みということもあり、宿泊の稼働は例年どおり高水準で推移したが、相変わらず宴会、レストランについては前年同様かやや下回る状況である。家族での利用は増加傾向にあるが、企業での利用が戻らず、景気が良くなっているという感じはない。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・販売量が前年比100%程度のため、変わらない。
		旅行代理店(支店長)	販売量の動き	・8月は個人の旅行が最大限に動く時期である。しかし、当社の場合、海外旅行では長期間のヨーロッパ、アメリカ等の伸びが悪く、国内は宿泊を伴う2泊3日などの旅行等が少なくなっている。近場や単価の安い旅行に流れているため、売上が上がってこない。
		タクシー運転手	それ以外	・例年、お盆を挟んだ2～3週間は売上が落ち込むため、景気の良し悪しを判断しにくい。やはり売上は例年どおりお盆を挟んで落ちている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・月初から中旬まで昼間の利用はかなり多かったものの、お盆が明けると一気に動きが悪くなり、夜、飲み屋からの客もかなり減っているため、深夜の売上が期待できない。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・前月と比べて付帯サービス及び機器販売等の購入が減少してきている。
		通信会社(経営者)	販売量の動き	・テレビ、インターネット、電話共に獲得は好調だが、テレビ、インターネットが集合バルク契約によるもので増えているだけで顧客単価が低く、中身が伴っていない。また、携帯電話の勧奨が低調で、かなりテコ入れをしている。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税や生活用品の物価も上昇しているものの、収入が増えていないため、日常の生活費が圧迫されて消費には結び付いていない。ケーブルテレビの娯楽サービス契約の伸びが厳しい。一方、インターネットや電話のサービスは生活必需品でもあり契約数は伸びているが、他社とのサービス価格の競争で厳しい。
		通信会社(営業担当)	単価の動き	・月額料金の安さを追求する客と付加価値の高いサービスを選ぶ客とで分かれる傾向は続いており、比率も変わっていない。
		通信会社(局長)	販売量の動き	・タブレット型端末が普及してきているため、当社の多チャンネルサービスの連携は強化されてはいるものの、固定電話離れが顕著なため、トータルのサービス加入数は横ばいである。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・加入動向について特に変化は感じない。相変わらず、コスト意識から下位コースへの変更が多く、新規加入についても無駄と思われるサービスを削ぎ落としての加入が多い。
		通信会社(総務担当)	単価の動き	・日常の食料品購入時の価格が一部上昇しているが、異常気象や夏休み関連の特需と考えている。相対的には変化がない。
		通信会社(管理担当)	販売量の動き	・通常、夏季は販売量が低下するが、今年は横ばいをキープしている。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・猛暑の中、ゴルフをする気になれないのは暑さだけではなく、景気がまだ思うように回復しないことで、人々が元気になれないからだと思う。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・夜の8時ごろが一番ピークで客がよく入店するようになっている。また、暑くて涼むために入ってくる人もいるため、朝のスタート時の客数もやや増えている。現在の景気については良いと答えたが、上向きか下向きかではそれほど変わっていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・特に気が付くようなことはない。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みから若干の回復がみられていたが、夏の天候不順等で景気回復が若干遅れているように感じる。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	単価の動き	・質を落としてでも単価の安い方にする傾向にある。
		設計事務所（職員）	それ以外	・特に大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・3か月前と同様に良い状態で推移している。特別良くなっているとは思わないが、客の動きは活発と情報が入っている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注の減少が止まらない。昨年10月より前年比20%減となっている。売上については上期ぐらいまではあまり影響ないが、契約未着工の受注残は大幅に落ちてきている。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・建築資材の受注量が横ばいである。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・一部の企業は良くなってきているが、全体的には悪い。特に、小規模のところが回復していない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・年々、高温多湿化が激しくなり、商店街など路面店での買物は敬遠され、ショッピングモールやスーパー等で涼みながらのショッピングへと移行している。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・お盆の需要は前年より少し良かったが、お盆前後は猛暑による来客数減で売上が減少した。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	単価の動き	・他店へ流れているせいか、来客数が減っている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・店頭における文具の一般小売りに関しては、大ヒット映画やアニメ等の人気商品もあるため、来客数、単価共に上がっている。しかし、外商系の案件は100万円以下の小案件は数あるものの、スチール家具等の大口の案件が減ってしまっている。すべて合わせると3か月前よりも悪くなっている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・ここ数か月、気温、湿度共に高く、猛暑日も続き、お茶の売上に大打撃を受けている。冷水で飲めるお茶もあるが、全体の売上は前年同月に程遠い数字となってしまっている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響がかなり出てきている。本当に必要なものは買うものの、安いから、欲しいからでは買わない傾向がより強くなっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・来店回数が減っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・月後半になって天候が悪くなったせいもある。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・天候不順もあり、来客数が大幅に減少している。コンビニカフェなどのプライベート商品の売上は維持しているが、それ以外は前年を下回っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣に競合業務スーパーが開店したためである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は天候に左右された月である。天気が違うとここまで売れたり、売れなかつたり差があるのかと実感している。これから先、天候がどうなるか全く分からず、非常に悩んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・中国の食品偽装問題による影響で、フライドフーズの売上が苦戦している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・あまりにも暑かったために衣料品の購買意欲が上がらず、消費税増税の影響もあって少しでも安い物を求める客が多い。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月も来店数が少ない。猛暑により、特に、昼間の客が少なく、売上も大きく低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (営業担当)	販売量の動き	・今月は前年比100.2%と前年をクリアすることができている。6か月連続で前年は達成しているが、財布のひもは固く、更に消費税が上がるような話も出てきているため、かなり厳しくなってきた。毎日の売れ筋の仕入など、まだ動ける若さなので細かい動きができているが、年配者の店だとはならないと思う。
		家電量販店(店員)	単価の動き	・消費税増税の影響か、顧客の衝動買いが消極的になっている。
		家電量販店(統括)	販売量の動き	・異常気象による天候不順が続き、夏物商材であるエアコン、冷蔵庫が前年割れとなっている。来店客も減少し、追い打ちをかけられている。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・新車販売の売上が前年と比較してかなり減少している。
		乗用車販売店(販売担当)	販売量の動き	・建設関連ではオリンピックや東北の復興需要などでトラックについては需要が増えてきているものの、今月については受注が思うほどできていない。中古車についても前年同月と比べ少し落ち込んでいる。今までは伸びていたがやや停滞気味なので、今が踊り場という気がする。
		住関連専門店(統括)	販売量の動き	・消費税増税後、今になって買い控えが増えてきた。必要な物以外は購入しないといった感じで、全体的な販売量も減ってきている。
		その他専門店 [ドラッグストア](経営者)	競争相手の様子	・近隣に競合店が増える一方である。確実に売上と来客数が減少するため、全く違う路線を模索しているが、効果がまだない。
		その他小売 [ショッピングセンター](統括)	販売量の動き	・既存店舗の売上が鈍化傾向にある。
		その他小売 [ゲーム](開発戦略担当)	販売量の動き	・8月はほぼ前年並みだが、人気アニメソフトのけん引がなければ大幅に割り込んでいたところである。10万本を超えるソフトが3本だけという寂しい夏休みである。
		その他小売 [ショッピングセンター](統括)	販売量の動き	・レディースファッションを中心に物販店が前年の数字をクリアできていない。競合店のリニューアルオープンの影響もあるが、消費税増税の影響もあると考えている。
		その他小売[生鮮魚介卸売] (営業)	販売量の動き	・暑さが原因だと思いたい。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・8月は天候不順や客足の出遅れもあり、売上がやや悪く、前年を10%ぐらい割っている。
		旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・今月は猛暑で客の出足が大分鈍り、我々の商売にも非常に影響が出ている。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・お盆休みの影響もあり、団体旅行の問い合わせの電話、FAXの件数が減っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昔からニッパチとあって2月、8月は景気が悪いとされることもあるが、今年の8月はお盆の連休と猛暑に見舞われ、また、アベノミクス効果が出てこないため、景気はあまり良くない。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・インターネットサービスを解約して、価格の安い他社へ切替える顧客が増加している。
		通信会社(経営企画担当)	お客様の様子	・現在契約の顧客における今後の案件規模が低下しているため、やや悪くなっている。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・3か月前はゴールデンウィークを含め、春の繁忙期であったため、今月の旅客はそれよりは若干減っている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・高齢化社会になった関係か、若い人の姿が見えなくなり、来客数が少なくなっている。
		設計事務所(経営者)	それ以外	・当事務所は入札による公的な設計が8割ぐらいを占めているが、なかなか良い物件の指名がない。耐震診断の設計が終わってからこれはという物件が少なく、目新しい入札がない。そのため、民間の仕事を一生懸命頑張っておき、多少なりとも話を聞いてくれたりと、上向きの傾向がみられる。
		設計事務所(所長)	競争相手の様子	・当業界では業者の数が増える一方で、仕事量が増えていない。景気が悪い方向にいつてるのではないか。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・例年の8月に比べて契約数が大分少なくなってきた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・請負工事の受注量は数か月前から明らかに減少しており、今後、前年以上の工事量を確保できる見通しが立たない。
		一般小売店〔文 房具〕(経営 者)	販売量の動き	・来客数が全体的に少なく、絶対数がいつもと違って悪い。原因が何であるのか分からない。
		スーパー(総務 担当)	来客数の動き	・7月下旬に競合店がオープンした後、食品を中心に急激に落ち込んでいる。1か月経過したが、まだ回復の兆しがみえず、来客数が戻らない。ただし、客単価は若干上昇傾向にある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜2時過ぎは客の動きがない。
		住宅販売会社 (経営者)	来客数の動き	・当社は住宅を主に扱う不動産ディベロッパー業と総合建設業だが、住宅事業においては消費税増税後は客が全くみえず、先月は1,000万円以上も広告費をかけたが、その新聞広告で2組しか来場しなかった。ここ20~30年の間でこれほど来客数が激減したことはない。総合建設業の方は先月と変わらず、公共工事の発注量が非常に増えているが、工事原価が異常に上昇しているため発注価格に合わず、入札不調が続いている。
企業 動向 関連 (南関東)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
	変わらない	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・3か月前よりは良くなっているが、前年比95%ぐらいである。来客数は増えたが、客単価が下がっている。
		プラスチック製 品製造業(経営 者)	取引先の様子	・相対的に各顧客とも新企画への投資に勢いがあり、これまでちゅうちょしていた案件も動き出している。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・直近でみれば政府の景気対策の効果もあり、受注量が増えている。
		一般機械器具製 造業(経営者)	それ以外	・売上にはまだつながっていないものの、見積が増えてきているため、これから良くなるのではないかと。
		建設業(経営 者)	取引先の様子	・仕事が一杯なので他社にも紹介している。
		建設業(従業 員)	取引先の様子	・得意先からの見積量が増えてきている。
		建設業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・依然として工事案件が増えており、受注量も3割ほど増加している。
		不動産業(総務 担当)	取引先の様子	・オフィスの空室率の改善傾向が続いているが、賃料の改善はまだみられない。ただし、入居テナントの業績の良し悪しで賃料の相場も変わってくるようである。
		税理士	取引先の様子	・消費税増税後で消費離れた4月に比べ、売上は前年より良くなっている。
		経営コンサル タント	取引先の様子	・サマーセールを終えた商店街の会合で、大半の店の売上が順調に伸び、セールとしては成功だった。昇給、ベースアップをした企業が多く、賞与も昨年夏より増えた。財布を握る主婦の意識がかなり変わってきていると語る店主が多かった。
		その他サービ ス業〔警備〕(経 営者)	取引先の様子	・公共事業の仕事が順調に推移しており、人手不足である。
		その他サービ ス業〔情報サー ビス〕(従業員)	受注量や販売量 の動き	・通信各社の高速インターネット環境整備に関わる競争が激化してきており、マンションにおいても受注件数が増加してきている。
		食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・消費税増税後、景気が若干停滞しており、なかなか回復しない。
		食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量 の動き	・盛夏にもかかわらず雨が多く不安定な天気、売上も日々変動している。
		出版・印刷・同 関連産業(経営 者)	取引先の様子	・インターネットの普及により、特に、チラシ等が減少してきている。得意先の要望に対応していくよう努力している。
出版・印刷・同 関連産業(経営 者)	取引先の様子	・8月は長期の夏休みの関係で取引先からの引き合いが少なく、あまり良くない。		
出版・印刷・同 関連産業(所 長)	受注量や販売量 の動き	・お盆休みの影響もあり、動きが鈍い。受注量、金額共に前年比を大きく下回っている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		プラスチック製品製造業（経営者）	取引先の様子	・新しい製品の受注があり、売上は伸びているが、主要製品で一般的に使われる物の受注は決して伸びていないため、景気は変わっていない。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・客先では設備関係の仕事を今年度予算で計画しているが、5か月たってもまだ発注されておらず、先が見えない。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・新しいテーマの話が特にない。
		その他製造業〔鞆〕（経営者）	取引先の様子	・女性用のハンドバッグがここへきて陰りが出てきているため、皮を使用した関連商品に方向を向け、手を広げている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品がなかなか売れない。
		建設業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・現在、仕事はフル稼働だが、受注単価が原価の上昇に追いつかず、ただ仕事をこなしている状況である。上昇した原価分は請負業者である当社が負担しているような状況で、仕事をしていても手元には何も残らない。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・一般的には景気は上向きというが、運送業など交通関係に限っては燃料が非常に高騰しているため、苦戦している。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・荷主と話しても決して良い話はない。荷主の方も仕事が少なく、分配しなければならぬため当社だけに仕事を出すことはできないとよく言われる。何とか仕事がもらえるように一生懸命努力しているところである。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前月と変わりなくスポット的な業務は増えてきているが、継続しない状況が続いている。
		金融業（統括）	取引先の様子	・株価は上がっているものの、顧客の資金ニーズ等はほとんど変わっていない。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・取引先の倒産件数は減少傾向だが、各業種の売上、利益等はあまり伸びていないため、景気がまだ持ち直していない。
		金融業（役員）	取引先の様子	・医療、介護関連で積極的な設備投資の相談があるが、全体的には景気が良くなっているとは思えない。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・為替、株価共に非常に狭いレンジの中での動きとなっており、投資に対するスタンスも慎重になっている。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・駅から徒歩6分の物件が満室になり、もう1件の物件はまだ2戸空室である。駅から徒歩5分、6月完成の24.42㎡、67,000円、礼金敷金各1か月の1Kが6戸の内3戸が空室である。また、駅から徒歩4分、RC構造の29～30㎡、68,000～77,000円、1Kの2戸、58㎡、128,000～132,000円、礼金敷金各1か月の2LDKの3戸についても、オートロックその他設備が完備され、8月完成で入居できるが、まだ1戸も申込がない。時期も悪いとはいえ、厳しい現実である。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は隔年実施のイベント協賛の受注があったため、前年の8月より売上は良くなっている。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・想定内のようなのだが、消費税増税の影響で自動車がなかなか売れないため、宣伝関係も若干抑え気味である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小製造業の受注状況は相変わらず厳しい。夏の賞与が出せない企業もある。
		税理士	それ以外	・夜間、地元駅まで商店街を通る際に飲食店の客入りをみているが、ほとんど客が入っていない店が多い。リーマンショック前は入っていたが、飲食店は大変である。
		社会保険労務士	取引先の様子	・労働保険料、社会保険料等の滞納などを行っている会社も目立つ。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・飲食店等で客入りが良く、前年より売上増の店舗が目立っている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	競争相手の様子	・毎年8月は良くない。休みのせいなのか消費税増税の影響なのかは分からない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆休み前は動きが鈍かったが、休み明けには動きが良くなり、月間の受注量としては例年どおりとなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・見積依頼件数は増えてきているが、成約に至ることは少ない。新規の受託物件もあるが、減額や解約物件もあり、トータル的には変わっていない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・レギュラーの注文は減っていないが、新規がなく、変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・電話、FAXなどの問い合わせがほとんどないような状況である。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑やゴム印、名刺の印刷の仕事をしている。今月は会社設立の印鑑が4本で、その内の2本が新会社設立だが、あとの2本は紛失したためもう1つということである。通常月は6～8本ぐらいあるので少ない。また、当店は問屋から先を見越して仕入れるのではなく、需要が発生してから仕入れているため、正に景気そのものだが、通常月の6掛けぐらいしか支払いがなく、夏休みを考慮しても少ないため、やや悪くなっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	競争相手の様子	・今月に入って下請専門の同業他社より新規開拓の営業訪問が数件あったが、7～8月の受注件数が例年になく少なく、厳しいとの話である。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いは通常どおりに来ているが、先の物件が多い。消費税増税前に受注が増えたので、その反動かもしれない。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は前年比でマイナス8%、前月比ではマイナス12%と大きく落ち込んでいる。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・購入意欲の低下なのか、決定までのプロセスが長い。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取扱量の低迷が依然として続いており、前年同期を下回っている。輸送業界の景況感の調査結果をみても、大きく悪化しており、改善の兆しが見えない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主の輸出物件は計画どおりに生産出荷しているが、国内向けの生産は横ばいで出荷量も低迷している。また、燃料価格の高騰が続き、苦戦している。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・今月は明らかに悪化している。
悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・想定内ではあるが、業界的に小規模企業にはかなり厳しい状況である。好転への兆しが見えないため、新規事業の企画を模索する必要性を感じている。	
雇用関連 (南関東)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・業種、業界に関係なく、求人数は高いまま横ばいである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・新卒採用においては学生の内定辞退が増え、企業が苦戦する局面が多くなりそうである。そのため、採用継続企業が増えている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	周辺企業の様子	・求人数をみると例年の8月と比べて変わりはないが、9、10月以降に新規または拡張に伴う求人の案件の話がいくつもある。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	求職者数の動き	・求人を出しても応募がなかなかなく、採用できないことがあると聞いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同期に比べ増加している。特に、前年同期は減少していた正社員求人数が、今年度は増加している。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人募集をしても応募がほとんどないため、パート求人では働く時間や休日については相談可能としたり、フルタイム契約社員を正社員登用可能とする求人に変更するなど、賃金引上げではなく、雇用形態にも変化が出ている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は相変わらず微増ではあるが増加傾向で推移しているものの、求職者の減少が大きく目立っている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人は幅広く出てきているが、中長期的な観点からの人材の要求が強く、企業は安定的な経済成長を期待している。
		変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・求人は獲得できているが、人材の確保に苦戦している。
		人材派遣会社(社員)	それ以外	・周囲の消費動向などに変化がみられない。
		人材派遣会社(支店長)	それ以外	・転職希望の登録者が前月より増えてきているが、20代前半の若手と40代以降が多く、なかなか仕事と結び付かない。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・今月は倒産が5社、廃業が2社、新規が29社である。お盆前に少し落ち込んだものの、お盆明けにかなり注文が入り例年より少し多いため、落ち込み分をカバーできている。2～3か月前と比べてそれほど変わりが無い。
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・ここ数か月の求人数は前年同月と比べて大幅な増加で推移しており、3か月前との比較でも増加しているが、前年と同様の動きとなっており、季節的な変動によるものと考えられる。就職者数は求人数の増加に反して前年同月比でわずかな減少で推移しており、3か月前との比較では前年は増加していたが、今年は減少している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は前年同月比で2けたの増加率に戻ったが、正社員求人は微増のまま推移している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は前月より若干少ない程度であり、また、前年同月と比べても同様の状態である。そうした中でも介護関係では人手不足の影響が派遣求人が多くなっているが、全体としての力強さが感じられない。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・求人数、採用人数共に継続して順調である。一般事務や営業事務などのサポート職の採用にも広がっている。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・求人数、採用人数共に高止まりしている。
		学校〔専修学校〕(就職担当)	求人数の動き	・求人の獲得数は前年同月比で若干の伸びであり、大幅な変化は感じられない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社(営業担当)	採用者数の動き	・求人数は若干増加傾向で推移している。有効求人倍率も1.0倍を超えてきており、売り手市場に推移しているものの、求職者数が少なくなってきており、採用数が若干減少し始めている。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	周辺企業の様子	・広告出稿などの動きが悪い。
	悪くなっている	—	—	—

5. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・バレーボールの国際大会で女子日本代表チームが準優勝をしたので、バレー関連の客がたくさん来ている。
(東海)	やや良く なっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・今月に入って受注量・金額ともに伸びている。暑い時期は商品が動かないが、今年は例年になく動きが多い。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・消費税増税の影響も一段落して、夏季繁忙期に入り販売先にもよるが販売量が増えているところが多い。
		一般小売店〔惣菜〕(店長)	販売量の動き	・客の購入単価が上昇しつつある。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・今月始めてクリアランスセールも一段落し、売り場も少し縮小しているが、複数の催物では高額な注文販売のスニーカーに多くの注文があり、高額品にも需要があることに驚いている。
		百貨店(売場主任)	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要による反動減が薄らぎ、買い控えの程度も前年並みになってきている。
		百貨店(経理担当)	来客数の動き	・台風を含む天候不順による週末の客の出控えで減収となっているが、天候の特殊要因を除く実質ベースで見れば、わずかではあるが前年を上回っている。
		百貨店(営業企画担当)	単価の動き	・高額商品は、消費税増税以降苦戦が続いてきたが動きが出始め、前年割れが続いていた品目が前年並みを確保できるようになってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	単価の動き	・客は、ただ単に安さだけを求めるわけではなく、商品に価値を認めれば、多少価格が高くて購入する傾向となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数がわずかだが増えている。商品単価の上昇もあり客単価は上がっている。来客数の減少は若干あるが、購買意欲は強くなっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・この数か月は売上高が前年比105%以上で推移している。特に、惣菜や肉類で付加価値の高い商品が買い求められている。
		スーパー（支店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響もやや緩和し、販売動向も改善しつつある。
		スーパー（営業企画）	単価の動き	・1品当たり単価の上昇により客単価は前年を上回っており、その結果、売上は前年を上回っている。また上質な商品の動きが良く、品質の高い商品を扱う店舗での数値が好調である。
		衣料品専門店 〔紳士服洋品〕 (売場担当)	単価の動き	・紳士服の需要では、特にスーツ等の高額品の動きが良く、上向き傾向にある。一方で、肌着などの比較的単価の低い商品に関しては、消費税増税前の駆け込み購入の影響も多少あるのか、いまだ回復傾向が見られない。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・お盆休みのある8月は、例年客足は鈍くなるが週末の雨や台風も重なり、来客数は落ち込んでいる。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・今の景気は良くもなければ悪くもないが、3か月前の消費税増税直後から比べると、ほんの少しではあるが良くなっている。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・民間設備投資の増加及び公共投資による新築工事や大型リニューアル案件等が増加している。しかし、戸建住宅を中心にマンション、住宅の販売が伸び悩んでいる。
		その他専門店 〔雑貨〕(店員)	販売量の動き	・ボーナス支給もあってお盆休み期間の客の消費動向はやや良い状況である。
		高級レストラン (役員)	来客数の動き	・都心部では法人需要が堅調である。郊外店でもお盆の営業で前年同月の来客数を上回っている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・前月頃から8%という消費税率が受け入れられていると感じる。3か月前の増税直後の動きが鈍かったことと比べれば、良くなっていると思う。
変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・ここ数か月続いている傾向であるが、客は必要なもの以外は買わない。そのため客単価も伸びない。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・アベノミクスの効果が薄れ、以前よりは良いが、景気は回復途中への踊り場で停滞している。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・天候不順で来客数が減少し売上が伸びない。特に夏場の商品である殺虫剤、制汗剤や日焼け止め等の売上が伸びない。ドリンク剤は例年並みである。夏場の売上を期待していたが厳しい。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・遷宮から続いていた多数の参拝者の来訪は終息している。平常の賑わいに戻り、落ち着きを取り戻している。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・例年通りお中元の時期が終わると極端に来客数が減る。3か月前と比べると、業況の良い客からの受注は伸びているが、まだまだ回復していない客もあり、2つの客層が混在している。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への来客数は増えていない。店を選んで利用する傾向が強くなっており、店の中で勝ち組、負け組がはっきり出てきている。イベントや催し物を行っている店を選択して客は足を運ぶので、そういう提案がない店からは客がどんどん流れていく傾向である。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・セール期間中には賑わいがあるが、それ以外の日の売上高は前年に比べ若干落ちている。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	販売量の動き	・客の様子からは、消費税増税はある程度仕方ないと思っはいるが、実際に買物してみると増税感を非常に感じるようである。しかし、家電販売で見れば、白物商品に落ち込みはあるが、客は決して価格だけで選んでいるのではなく、良い商品は、高くても納得すれば購入している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・販売量で見ると、商品アイテムを問わず不振である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・消費税増税後の反動からそろそろ上向き傾向になるかと思っただが、相変わらず来客数は前年同期を下回っており、回復の兆しが見えない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小小売店では悪い状況が続いているが、飲食店には前年実績を上回る店もあるということで、中小事業者全体ではまだ模様様の状況である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費者の大多数は給与の手取り額が上がっていないため、消費税増税の負担が大きく、消費が拡大しない。食料品の売上はまずまずだが、その他の商品は不振で、衣料品等では夏物を次年度に持ち越せないため原価割れで販売して現金化をしている。これではマイナス成長になっていく。国内1、2位を競う企業のショッピングセンターでも、エスカレーターの速度を落としたり電気代の節約を図り、就業者の数もできるだけ減らし、今まで以上の経費削減に努力している。そのため、全体で見ても景気はまだ良くなってはいない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年の96%前後で推移している。商品価格の消費税抜き表示の効果や、野菜や肉の価格高騰等により、商品1品当たり単価は上昇し、売上は前年並みとなっている。
		スーパー（店員）	単価の動き	・安売りの時だけ客が来て、普段の来客数はなかなか増えていない状況である。
		スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は、高温、ゲリラ豪雨やその後の気温低下などで食品の販売が不振である。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・足元の販売量が良くない。前年に比べて上がったたり下がったりと日々変化しているので、平均的には大きくは変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は前年同期並みを維持しているが、来客数が依然として前年を割っている。加えて今月は台風の襲来など天候にも恵まれていない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・天候不順等が理由かもしれないが、今月は販売量が振るわない。また、消費者からは購買意欲をそれほど感じない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコンや冷蔵庫の売上は前年同期よりも悪いが、洗濯機や掃除機が売れており、全体としては前年並みである。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・消費税増税以降、落ち込んだ状態がずっと続いている。客単価も販売量も回復しておらず、その間の売上高は横ばいである。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客は消費税増税にも慣れ、特に気にしなくなっているように感じる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税から5か月過ぎているが、販売台数は相変わらず低迷しており前年同月を大きく下回っている。今月も会社目標の75%前後で推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・現在は、客に強く訴求する車がない。夏休みの長期休暇もあり客も強い購入意欲は示さず、店頭の花気もあまりない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・全体的に販売量が減ってきており、目標値に対して80%程と厳しい状況が続いている。例年落ち込む8月という時期を考慮しても低い状況である。工場への入庫数も減少気味であり、点検等でも必要最低限の部品交換のみという要望が多く、売上も減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の動きとしてはあまり変わっていない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年ではこの時期には来客数が少し伸びるが、今年は伸びを感じない。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・例年の夏に比べても売上は変わらず、景気は良くない。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・客は価格を重視するあまり、商品の中身も確認しないで問い合わせをしてくるケースが多い。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・天候不良による野菜等の価格高騰に加えて、消費税率の引上げは、かなり家計に影響を及ぼしている。個人客の需要の伸びが思ったよりも小さい。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・天候不順が続く影響で、来客数が減っている。その一方で、国内の団体旅行の申込は、いわゆるプチ旅行といった日帰り旅行（バス利用）で特に増えている。全体的には、例年並みの旅行需要となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・お盆までは人の動きも良く、暑い日もあって夜の繁華街も客が多かったが、中旬以降は天気不順の影響もあり、夜の客が早く帰る傾向が強く売上が伸びていない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年お盆過ぎは繁華街の人出が少なくなる。前年同時期の状況とほとんど変わりなく、人出は少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・地元チームが都市対抗野球で優勝し祝勝会等もあったが、それ以外の状況は変わらない。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・消費税増税後の反動減からは持ち直してきているように感じるが、競争激化とあいまって、新規契約数は依然として伸び悩んでいる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売量の変らない状況が、現在まで続いている。
		美顔美容室（経営者）	販売量の動き	・今月から年末までホームケアセットのキャンペーンが始まったので、セット商品は売れるが、他の商品にはあまり変化がない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の話からは、レジャーにはあまり出掛けていないようで、支出を抑えるため外食も控えている人が多い。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響が続いており、客の様子も変わらない。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	それ以外	・市町村によっては、デイサービス事業への新規参入を認めず現況事業者に限定する動きがある。競争原理が働きにくくなっている。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・景気の良い話は聞かない。国全体として、景気を回復させるような政策が行われていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は相変わらず横ばい状態である。
		住宅販売会社（従業員）	それ以外	・消費税増税前は駆け込み需要の影響で多忙であり、それと比較すると現在は、増税前の受注残がなくなってきていることは明らかだが、新しい仕事が全くないわけでもなく、業者の話では、今の状況はそれほど悪くないという感じである。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	それ以外	・来客数、契約数は、例年と比べて良くも悪くもない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・お盆の繁忙期にデパート数社と合同で催事販売をしたが、客単価が非常に低く売上が伸び悩んでいる。各種団体の会合の際の手土産でも、消費税率引き上げの影響で例年より購入単価が落ちている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・住宅関連は、取引先の話聞いてもあまり良くない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・今月は天候不順のため販売量の動きが悪い。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・今年の夏はとにかく天気が悪く、全体に商品の動きが鈍い。お盆の時期の売上は前年同期より15%程度落ち込んでいる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑を始め天候の異常によって、商店街の人出は大きく減少している。例年恒例の夏のセールの結果も、昨年の売上には若干届かない状態である。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・月初めから中旬にかけては、天候不順等の影響もあり販売量は前年割れのペースで推移していたが、後半は販促策を強化して前年同期を超えてきている。しかし、客の購買意欲には力強さを感じられない。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は悪く、客単価も低下している。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・平均的な所得以下の人々は、特別な時期以外の外出を控え、外出先での購買点数と単価も更に減少している。子供向けのイベントもお盆以外は非常に集客が厳しく、収入はイベントへの入場料のみでグッズの販売は減少している。不要な支出に対する引き締めが顕著になっている。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・今月は台風や大雨により、目に見えて客が少ない。お盆商戦の売上が予想よりも10%ほど低下していることも痛手である。
		スーパー（商品開発担当）	来客数の動き	・8月上旬の台風の影響で、販売数、金額ともに下降したまま戻らない。客層の二極化で高付加価値商品も売れてはいるが、全体のバランスを見れば、来客数は減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・中国での食品加工品の騒動で半月ほどの間、ホットフーズへの影響が生じている。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗での購入客単価はやや下降傾向にあり、売上は前年同期を下回っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天気が悪い日の来客数が良くないが、天気が悪くない日でも来客数は伸びていない。徐々に消費税増税の影響が広がっており、単価が高い商品の売れ行きが悪い。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は、前年比約3～5%の割合で減り続けている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・天候が悪く気温が低めであるため、全体的に販売量は低調で、特にアイスクリームが大幅に落ち込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・客層の二分化がより顕著となっているところに異常な暑さで外出を控える客があり、来客数は激減し、売上も商売を始めて以来最低となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・お盆休みということもあり稼働日数も少ない上、競合車種の新型発表により、そちらの方に客足が流れている。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客は、購入を検討はしているものの決断には時間を要し、消費マインドは今一つ低調である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は全体的に天候が悪い日も多く、お盆休みもあってレジャーへの支出が増えるので、繁華街の人通りは例年以上に少なく、売上は2割以上落ち込んでいる。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・消費税率上げの影響が徐々に現れてきている。単価が高い商品ほど、客の反応が悪い。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊需要は、前年の約100～115%となっているが、昼食・夕食需要が80～90%ということで、やや悪くなっている。昼食・夕食需要の動向は、地域経済に直結して現れるので、この状態が続いていることからやや悪くなっていると見ている。
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・宴会需要が、宿泊・一般ともに不調で、2割近くの減収である。一方、宿泊需要は天候の影響を受けつつも個人客が好調で、予想以上の増加である。しかし、事業全体としては100%に届かないのでやや悪くなっていると感じている。
		都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・宿泊客は、天候や身の回りの生活の様子等からか直前予約が多くなっている。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・宿泊客数は前年同期を下回り、宴会の受注状況も同様である。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今月は各地でお祭り等があるが、今年は天候不順のため非常に人出が悪い。
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・固定電話の解約件数が増えている。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・今年は台風や雨が多くお盆の時期にも閉館となるなど、その影響で入館者数が減っている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3か月前よりも入園者数の落ち込みが顕著で、客からも外出回数を減らしているという話を聞くことがあり、サービス業にとっては不利な状況である。
		観光名所（案内係）	お客様の様子	・リピーターが少なくなっている。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・前月に引き続き、今月も入場者数と売上は予算及び前年を大きく下回っている。高速料金の上昇に加えて今月は雨天が多く、自動車を利用する遠隔地のゴルフ場が数字を大きく下げている。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は繁忙な時期のはずであるが、客があまり来ない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・広告を出しても反応が少ない。低価格の物件しか売れない。
	悪くなっている	一般小売店〔電気屋〕（経営者）	販売量の動き	・天候の影響もあると思うが今月は非常に悪く、景気が回復しているとはとても思えない。客の財布のひもも固い。
		コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・8月の来客数は前年並みを想定しているが、集中豪雨や長雨の影響もあって大きく下振れしている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・消費税増税の影響を含めて、家電商品販売の冷え込みは顕著である。少子高齢化による生産人口の減少と購買層の高齢化で新製品を購入する客の数が減り、来客数にも影響が出ている。	
		パチンコ店（経営者）	単価の動き	・販売量の動きが悪い。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は雨が多いため、客足が悪い。	
		理容室（経営者）	お客様の様子	・客からはまだまだ景気の良い話は聞かれず、客足は相変わらず値段の安い店へ流れる。	
企業 動向 関連 (東海)	良くなっている	窯業・土石製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工件数が増加している。	
	やや良くなっている	化学工業（総務秘書）	取引先の様子	・小さな仕事を避け大きな仕事を優先するという仕事を選ぶ動きを感じる。本音では断りたい仕事を避けたいため、見積を高めに出す強気な姿勢を感じる機会が多い。	
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・前年まで1品目で当社売上の20%以上を占めていた製品が、最近3か月ほど受注ゼロになっており、足を引っ張っていたが、8月末になって急に在庫全量分の注文が入っている。その他の製品も順調に注文が入っている。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・生産財の需要が旺盛で、生産対応が間に合わず受注残が積み上がっている。国内においては消費税率引上げ後、売上回復がもたついているが、輸出は安定しており先行きを含めて大きな不安はない。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年同期比で増加傾向にある。	
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・遠出をしたり旅行へ行っただという話を聞くので、景気は上向いている。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出向け商品の販売が好調である。	
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・配送単価が順調に回復してきている。経費のコントロールもできるようになっている。	
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・自動車関連メーカーを中心とする大手企業では夏のボーナスが増え、地元の百貨店では、時計や貴金属類等の高級品の一部で売上が増加している。	
		会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・決算期を迎えた法人の中では、黒字となるところが徐々に増加してきている。	
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・取引先も各社でSE（システムエンジニア）要員の調達を進めており、年度内は人材確保が困難になってきている。	
		変わらない	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年に比べて大幅に減少している。消費税増税後、購買意欲の回復が実感できない。台風や集中豪雨など天候要因もマイナスに作用している。
			化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・足元の状況は、天候不順の影響もあって売上がやや悪い。
			化学工業（人事担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べ、販売量は特に変化は感じられない。スーパー・デパートの客も販売セール等特別な時にしか増えず、レジ待ちの行列も以前と比べて長くない。
			金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・物件の動きが活発になっているので、工場の稼働状況は良いが、材料費の高騰や外注依存率が高まるため、利益につながるかが心配である。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後、景気全体として落ち込んだ状態がそのまま続いている。パーラー業界の設備投資はやや減っており、変わらない状態である。
輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き		・受注量や販売量は、ほぼ年初計画の予算どおりで推移している。		
建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き		・本体価格が変わらなくても増税による総価格の上昇で、発注者の予算が合わず、留保となっているケースもある状況である。		
輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費財の荷動きが前年並みにまで戻らない状況が続いている。また、住宅関連メーカーの荷動きも低迷したままである。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・天候不順により週末の行楽やショッピング等の入出が少ないため、全体的に消費関連の荷動きが低調である。また、ガソリンを始め燃料価格の高止まりや高速料金の上昇で、車での外出や遠出が減っている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物量の状況には変化はない。
		輸送業（エリア担当）	それ以外	・タクシー会社にLPガスを販売している石油販売会社の話では、タクシー業界では乗客数が随分減っているそうである。長距離の客が圧倒的に減り、近場の利用客ばかりが増えて利益の上がる仕事が減っているため、タクシー車両の稼働率も落ち込んでいると聞いている。そのような状況を見ると、景気は良くなっていない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・取引先の様子では、例年に比べて安定しているという声が多い。大手企業では多少上向きのところもあるが、中小企業に関しては、自動車産業においてもあまり良いと言えず、受注単価が下がっている分、仕事量が増えてもなかなか利益につながらないという声が多い。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・個人のみならず法人でも不動産取得ニーズが現れてきており、従来に比べて投資意欲は旺盛になりつつある。
		不動産業（用地仕入）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格が伸び悩んでいる。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・売上の基となる客からの清掃依頼が伸びない。コストダウンの要求が強く世間で言われるほど景気が良いという実感はない。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・消費税増税後の広告受注量は、増税前と比べてもそれほど減少はしていないが、良くもなっていない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折り込み広告は一時期に比べれば上向きだが、以前のような状態は望めない。折り込みを宣伝媒体として使わなくなった企業も出てきている。
		行政書士 公認会計士	受注量や販売量 それ以外	・貨物の動きは、良くも悪くもない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・輸出型の大企業は円安による為替差益で好業績ではあるが、実質収益は改善していない。大企業が取引先の中小企業でも、売上高は増加しているものの、原料高や電力料金の引上げ等の影響で収益性は低下している。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・夏休み期間で稼働日数は少ないが、大変忙しい状態が続いている。また、円安傾向でも大きく落ち込むことはない。しかし、競合他社や取引先においては、少し稼働が下がっている傾向がある。
		やや悪くなっている		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）
鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き			・今年に入ってから、先々の仕事量は増えるので順調に進むという噂が先行してきたが、足元の受注量の増加にはつながらず、期待感だけの空回りに終わっている。
金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注量が減少している。また、引き合いも減少している。
一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き			・3月頃から非常に高い水準で推移してきた、中国EMS（電子機器の受託生産サービス）企業からの受注量が、落ち着いてきている。
電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き			・依然として消費税増税の影響から脱していない。
電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注量、販売量並びに売上が、継続的に前月を下回るような状況となっている。
建設業（経営者）	受注量や販売量の動き			・マンション、戸建住宅ともに土地や建設費の高騰により販売価格を上げざるを得ない。結果的に、客の予算との乖離を招いている。
輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き			・主要荷主等の荷動きが、前月比マイナス5.5%と悪くなっている。
不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き			・不動産の価格引下げや取引の中止が発生している。
悪くなっている	—			—

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (東海)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・有料職業紹介への求人依頼が増加傾向にあり、求職者が不足している。
		人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・年度の上半期も後半に入り、下半期の派遣の引き合いが出ている。
		職業安定所(所 長)	求人数の動き	・新規求人数が3カ月前と比べて28.0%増加している。新規求職者は、前年同期に比べ12.0%減少し、人手不足感がある。お盆休みが明けて転職希望者が目立つ。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・医療・介護分野、建設関連及び小売業関係では、相変わらず人手不足感がある。採用意欲は全産業でうかがわれ、特に今まで採用に慎重であったオートバイ関係の募集に好調さが現れている。また、来春の卒業生を対象とした求人募集においては、昨年を大幅に上回る募集状況となっている。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数が緩やかに増加する傾向である。
		民間職業紹介機 関(営業担当)	求人数の動き	・引き続き中途採用ニーズは活発で、大手企業の大量採用だけでなく採用をこれまで控えていた企業でも順次活動を始めている状況である。
		民間職業紹介機 関(営業担当)	周辺企業の様子	・中小企業を中心とする経営動向は前向きとなっている。中小企業庁や外郭団体が実施する専門家派遣制度の中で、販路拡大や人員確保といった目的の支援内容が増加している。
		その他雇用〔広 告代理店〕(求 人広告担当)	求職者数の動き	・求人広告の件数や広告に対する反応もそれなりにあって、採用者数なども増えてきているようである。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	それ以外	・人材派遣の派遣スタッフが自己都合で契約終了した際、後任補充に派遣を発注するのではなく、自社社員が業務を担当して対応するケースが多くなっている。
人材派遣会社 (支店長)		求人数の動き	・求人数は3か月前に比べて102%、前年比で99%となっている。求人市場での有効求人倍率を考えると、厳しい状況となっている。	
アウトソーシ ング企業(エリア 担当)		求人数の動き	・自動車生産においては、消費税増税前の駆け込み受注残の生産も一段落し、増税後の反動減による新車販売の落ち込みもあり、生産台数はやや減少気味である。しかし人材不足は変わらず続いている。	
新聞社〔求人広 告〕(営業担 当)		雇用形態の様子	・正規雇用の募集は少ないままであり、非正規雇用での募集が相変わらず目立つ。企業の人手不足感はあるが、正規社員の雇用意欲は低い。	
職業安定所(職 員)		求人数の動き	・派遣スタッフの求人が多少は減少しているが、製造業以外では派遣が増えているように感じる。	
職業安定所(職 員)		求人数の動き	・新規求人数は前年同月及び前月に比べて増加しているが、建設業や医療・福祉関係が目立っており、製造業関係の求人が伸び悩んでいるので、現状維持という状況である。	
職業安定所(職 員)		求人数の動き	・新規求人件数は、3か月前と比較すると7.3%減少している。新規求人数も9.3%の減少となっている。減少の要因としては、3か月前に活発であった飲食業の求人が一段落したためと見られる。	
職業安定所(職 員)		求人数の動き	・求人数は前月比では減少しているが、前年同月比では増加している。	
やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・3か月前に比べるとやや悪いが、例年並みである。	
悪く なっている	—	—	—	

6. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	住関連専門店 (店員)	販売量の動き	・これまで後回しにされてきた耐久消費財の需要について、販売数量や金額でも確実に動きが戻っている。例年は売上が伸び悩む8月も、この回復を受け上向きに推移した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(北陸)	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・食品関連については前年を超えるような好調さが出てきた。ファッションにおいても、デイリーカジュアル性の高いものが前年を超える状況になってきた。全体的にはほぼ前年並み、もしくは少し前年よりも良いという回復傾向が見受けられる。ただし、呉服、美術品、貴金属といったぜいたく品や、インポートブランド、ラグジュアリーといったものについては、下げ幅が10%前後と縮まったが、まだ厳しい状態である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・最近の客の買物動向をみていると、お中元商品などで、以前に比べると高額商品が少しずつではあるが動いている。逆に安価な商品が若干敬遠気味で、売行きが落ちている傾向にある。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税後、一部商品の値上がりがあったものの、影響は感じられなくなった。ギフトや墓花などの8月のお盆商材、飲料やそうめん等の夏季商材も好調な動きで、単価も昨年を下回っていない。
		コンビニ（店長）	それ以外	・3か月前は前年比で売上、来客数などが悪化していたが、8月は盆明けから思ったほど客足も下がらず、前年割れはしているものの3か月前ほどひどい状況ではなくなった。ほぼ前年並みか数%割れまで回復してきた感じである。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・春からの消費税増税のショックもようやく和らいできたように感じる。スーパーマーケットやドラッグストアとの価格差がある商材の売上は低調だが、米飯、総菜、菓子パンといった商材は前年並みに戻ってきた。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間、ファミリー客を中心に例年並みの集客ができた。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・8月前半は来客数、売上ともに前年を10%下回っていたが、週を追うごとに回復し、後半には前年の水準にまで回復してきた。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
	商店街（代表者）		来客数の動き	・8月上旬は7月の落ち込みをばん回できそうな雰囲気もあったが、台風や豪雨で客足が激減した。1か月でみれば、前年と変わらない程度の売上に落ち着きそう。
	商店街（代表者）		お客様の様子	・夏らしい日もあるが雨の降る日も多く、天候が不順であるため、夏物商材の売行きがあまり良くない。消費者の夏物商材の購買意欲が全体的にパツとしない。
	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）		販売量の動き	・すべてではないが、取引先で前年の売上を大きく上回る先が数多くなっている。8月は特に台風や大雨がひどく、魚の水揚げが少なかったののでうれしい誤算となっている。
	百貨店（売場主任）		お客様の様子	・消費税増税後の回復は徐々に現れてきており、高額商品にも動きが出てきた。しかし、ガソリン価格の高騰など、消費を刺激する材料に乏しく、衝動買いを含め、不必要なものは購入しない傾向が以前より強くなっている。
	スーパー（統括）		お客様の様子	・3か月前の消費税増税の影響が少し落ち着いた状況と比較すると、客の様子には変化はない。そうしたなかで、実質的に客の買い方には変わりはないが、天候不順による青果物などの相場の関係が売上の好要因となっている。
	スーパー（店舗管理）		単価の動き	・消費税増税の影響から回復した5月以降は、来客数、客単価の動きは一定である。
	変わらない	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上が前年同月比で90%という状況が、このところずっと続いている。客単価が前年より若干上昇しているが、来客数の減少をカバーするには至っていない。
衣料品専門店（経営者）		お客様の様子	・特に衣料品に関する売上が悪く感じられ、好転の兆しがみられない。	
衣料品専門店（総括）		お客様の様子	・バーゲンでも、ただ単に値段が安いだけでは通用しない。	
自動車備品販売店（従業員）		来客数の動き	・来客数は前年比で10%減少しており、さらに買上比率も下がっている。特に必要としない商品にはキャンペーン等の有利な価格訴求でも反応が悪く、必需品以外の購入を控える傾向が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・昔からニッパチとって2月、8月は暇だと言われているが、まさにそのとおりで、暇である。とにかく客単価が小さく、売上も減っている。ただし、3か月前と比べると状況は変わらない。消費税増税後、売上がダウンしたまま横ばいで推移しているという感じである。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・日用品、食料品などに関しては、消費税増税や天候の影響も感じられず、例年通りの販売量となっている。ただし、衣料品や服飾、宝飾品関連の販売量が例年と比べ5～10%程度落ち込んでいる。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・今月は順調に集客していたが、下旬に料亭部門が2か月間の改装工事に入ったため予約を姉妹店に振り分け、トータルの売上は例年並みに落ち着いた。
		一般レストラン （店長）	来客数の動き	・盆も含め、毎週末の天気が悪く、来客数に影響があった。ただし、例年は盆以降は客足が鈍るが、今年は健闘した。
		都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・8月の売上は、宿泊は7%増であったが、宴会はやや前年を割り込んだ。北陸新幹線開通前である今年は、大型の大会や学会が前年の70%しかなく、しばらく今の状況が続くとみている。レストランも前年実績には届かず、消費者の外食への動きは弱い。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・天候不順、消費税増税、ガソリン高などにより客は遠出を控えている。例年の夏休み特需も期待外れに終わっている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当社を取り巻く環境は消費税増税に加え、貸切バス新運賃制度の導入もあり、同じ商品でも2割以上高騰しており、顧客の買い渋りが目立ち始めている。また当社の利益も減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は全体として天候が不順で、台風や大雨の日が多くあり、夜の街は人出が少なかった。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・通信サービスにおいて、過去、解約件数が新規契約件数を上回る月が数か月続いたが、今月に入りようやく獲得件数が上回る状況になりつつある。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・料金プラン変更需要に伴い来客数は増えたが、販売比率で見ると15%ほど下がっている。新商品購入に向けての買い控えに入っている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・客からの問い合わせや契約数は変わらず推移している。
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・新規入会は少なかったが、退会を抑えることができた。しかし会員総数は前年同期を下回っているため、苦しい。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注額は一昨年と比較して単月で一けた台のマイナスにまで回復したが、単価や来場者数の回復は想定していたほどではなく、一過性のものか判断できない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントには一定の来場はあるが、住宅購入目的の来場者が減っている。また、客は一段と慎重になっており、契約までの期間が長くなっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・展示会等の来客数は多いが、客は慎重で急いでおらず、契約までに時間がかかる。また同業他社との競合も激しさを増している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の問い合わせが、以前と比べ増えているが、成約にまで至っていない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・来客数が少なくなっている。8月後半が例年になく気象が悪かったことが関係していると思われる。特にイベントでの来客数が伸び悩んだ。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・客の財布のひもが非常に固い。消費税増税の影響が7～8月に出ている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・クリアランスセールを実施しているが、前年に比べて天候不順であるため、来客数が前年を割っている。セールの中だるみもあり不調だったが、お盆過ぎあたりから少しずつまとめ買いが増え、7分袖など秋を意識した商材の動きが良くなった。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・4月の消費税増税以降、来客数が前年を下回り、8月になっても回復していない。給料が増えても消費に結びついていない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・盆を過ぎてから、通行客、来店客が今までになく減っている。消費税増税や物価高で支出を伴う行動を控えている感がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・7月の景気ウォッチャーの調査結果について、私たちの周りの人あるいは私の店舗環境とは、かなり違って、相当にショックを受けている。消費税増税の影響については回復しているかもしれないが、景気としては円安、ガソリン高、天候不良、収入が増えないなど悪くなっていると判断している。当地だけであろうか。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・8月は冷夏と言っていいほどであり、夏物商材の売行きが悪い。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・受注量が大変悪く、前年同月比75%に落ち込んでいる。同業他社でも同じように受注が悪いようだ。買い控えが目立っている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・中古車フェアのイベントに参加したが、予想したほどの売上に結びつかず、来客数も少ない。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・消費税増税直後は予想通り落ち込みが厳しかったが、6～7月は前年と変わらないレベルまで販売が回復した。しかし、この8月は季節的要因もあると思うが、受注、販売ともかなり減少がきつくなっている。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・8月の販売量は、前年同月比で70%である。今年5月の販売量は、前年同月比117%であったことから、3か月前との比較では下向きである。5月は消費税増税前の受注残があったことを考慮しても、消費需要の回復は鈍いと考えられる。
		その他小売 [ショッピングセンター]	来客数の動き	・消費税増税後、買上げ単価はほとんどだが、既存店実績では買上げ客数が前年を5%程度割る状況が続いている。増税後の影響からは食料品を中心に戻ってきているが、衣料、住まいの品などは春から厳しいままである。
		一般レストラン (統括)	それ以外	・内部では原材料の高騰による原価高、外食に集まる労働人口の減少による人手不足が要因の営業時間、日数削減により、今までの営業利益確保が難しくなってきた。売価引上げによる打開しか方策がない反面、売価引上げによる来客数減により現状以上の営業利益減が懸念される。
		観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・前年同月比で総売上は102%、宿泊人数は100%、宿泊単価は100%であった。個人旅行は好調であった前期には及ばなかったが、宿泊単価の見直しにより売上は確保している。地域別では関西方面からの集客が好調である。
		タクシー運転手	販売量の動き	・利用回数が少ない。また、夜の繁華街の客足も同じく少ない。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ガソリン価格の値上がりによる交通コストの上昇や、バスの料金規制によるバス代の値上げがあったことにより、個人客、団体客とも前年同月比で5～6%の減少となっている。あわせて今月は、前年と比較して、週末ごとに天候不順だったこともあり、その影響が大きく出る結果となった。
		悪くなっている	コンビニ(経営者)	来客数の動き
スナック(経営者)	来客数の動き		・前年は8月が悪かったので、それよりは若干良かったものの、盆後は特に流れが悪く、最悪であった。客の職種によって格差がある感じがする。	
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量については安定しつつあり、前年同期を上回っている。しかし、コストアップが先行しており、収益の面では課題を残している。
		一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧州市場はロシアへの輸出制限もあり若干停滞しているが、米国市場は好調である。また国内市場も工業用3Dプリンターの複合加工機の受注が伸びてきている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・第2四半期に入り7～8月は官公庁工事の発注が増え始め、当社では大型物件も受注できるようになった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・業界全体の施工能力が限界にあり、受注競争は緩和傾向で、受注量が増加傾向で推移している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・飲食店や小売などの出店希望もみられ、総じて前向きな経営判断を行う企業が増えている。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内、国外、各用途ともに、今のところ受注状況が安定している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況は横ばいである。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・百貨店を含む一部の大手小売店では販売が戻ってきているとの報告を営業から受けており、今頃より更に一般店にも広がるかと期待をしていたが、天候の影響などもあるかもしれないが、特に中小店ではまだその気配はない。
		輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油価格が高止まりしていても運賃に転嫁できない。値上げ交渉も難航し、厳しい状況は継続している。
		司法書士	取引先の様子	・街の中心街でも郊外でも、新しい土地利用や事業の動きはあるが、一方で開業40年以上の店が事業の先行きが見えないということで廃業するケースも多い。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・今月の販売状況については、徐々にではあるが3～5%程度の数量減が見えてきている。また、付加価値の高いものより、100円均一と言われる安価なものに流れている傾向が見える。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響で6月までは好調を保っていたが、7月以降少し陰りが出てきた。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・現状の消費者は買い控えをしており、特に車や住宅などの高額商品については消費税増税が価格に影響しているため、物の動きが悪くなっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・消費税増税の反動から徐々に抜け出してきていたが、7月以降夏らしい気候とならず、8月に入ってから特に天候不順で、全国的に災害が発生するなどあつてか、売上が伸び悩み前年同期比でのマイナス幅が拡大してきている。
		税理士（所長）	取引先の様子	・販売関係、特に個人消費関係に連なる人たちの苦戦が続いている。消費税率が引上げられたことと給料が上がらなかったことによる、実質賃金のマイナスが消費者に心情として完全にしみこんでいる状態である。やはり、給料が上がらなかったのが、今大きくマイナスにきているのではないかと。
	悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業他社によると、今は客の動きが少し止まっているという声が多く聞かれた。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月連続で売上が前年を割ることは確実である。
雇用関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・8月の求人広告売上は、前年同月比95%ほどであった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業で新規求人数が増加している。サービス関係からの求人数は堅調に推移している。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・経験者で即戦力になる人材の需要が多い。求職者とのマッチング率が低い。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・企業からの派遣、紹介予定派遣などの求人依頼は多く見込まれているが、人材不足でマッチングが厳しい状況が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数が件数、金額ともに3か月前から横ばいである。前年比もほぼ同じで、伸びはストップしている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月と比較して減少しているが、前月とほぼ同数であるため、状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は横ばい状況にあり、製造業においては業種間にバラツキが見られ、一部業種を除き勢いがなくなってきた。
民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材派遣、人材紹介ともに求人数に大きな変化はなく、増加の兆しが無い。求職登録者も年度初めと比べると低調になっている。		
学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・状況には特に変化はみられない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・8月前半の求人数の落ち込みが大きく、3か月前の月平均と比べると1回の発行あたり50件ほど落ち込んだ。
	悪くなっている	—	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (近畿)	良くなっている	競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は10,221円で、3か月前の9,405円からは上がっているが、お盆休みで一時的に回復したと思われるため、楽観視はできない。
	やや良くなっている	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	それ以外	・飲食関係の従業員の確保が困難になり始めている。
		一般小売店〔酒〕（社員）	お客様の様子	・予算よりも少し高めの商品でも、気に入れば購入する客が少し増えたように感じる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・8月は天候が不順であったが、来客数、売上共に前年を上回っている。
		百貨店（企画担当）	単価の動き	・消費税増税後、少しずつ回復に向かっており、高額品の動きも良くなってきている。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・消費税増税直後は大きく落ち込んでいた外商の上得意客による購買状況は、ほぼ前年並みにまで回復している。外国人客の売上も前年比で約15%と好調な推移が続いている。一方、ボリューム層である現金カード客の売上はまだ前年割れしているものの、6月ごろに比べると改善がみられる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・雨が多いなどの天候不順で、店頭客による売上は思わしくなかったが、月後半から上向いてきた。優良顧客による高額品の引き合いも増えてきている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・8月末で閉店する影響もあり、非常に販売量が増えている。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・天候不順で客足は鈍っているが、売上はファッション関連や住文化用品のほか、美術品や呉服、宝飾品を中心に、前年比で微減か微増の水準にまで回復している。
		百貨店（売場マネージャー）	販売量の動き	・3か月前に比べると、消費税増税の影響が大きかった時計の売上が回復傾向にある。また、影響が比較的少なかったファッションアイテムは、セールでの販売は前年並みであるが、秋物は例年どおり順調な立ち上がりを見せている。特に、メンズファッションが好調である。全体的には販売量はほぼ前年並みに戻っており、天候不順の特殊事情を除くとプラスになる。
		百貨店（商品担当）	来客数の動き	・生活必需品の食品のほか、化粧品は前年並みに売上が回復しているが、宝飾品などは前年比で15%のマイナスが続いており、売上不振である。服や靴も天候不順で動きが悪い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数、客単価共に、改善傾向がみられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品の販売点数が回復傾向にあり、単価もやや上昇している。
		スーパー（企画）	単価の動き	・客単価は上昇しているが、他社との競争やオーバーストアによる客の奪い合いが続いている。来年の消費税の再増税に向けて、ますます競争は激しくなる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・Sサイズのアイスコーヒーが中高年の女性に人気であり、数人のグループが何組も来店するなど、来客数が増えている。今ではアイスコーヒーのカップを持って歩くこともトレンドになっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・台風や豪雨により、花火大会などの多数のイベントが中止となった。かなりの影響が予想されたが、トータルでは来客数に大きな影響はなく、売上も目標との大きな差はない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今年になって全体的に客の動きが良く、客単価も上昇しているため、良い方向に向かっている印象である。東京はバブルであると聞くと、早く東京並みのバブルを味わいたい。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ファミリー層の来客数が伸びている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・平日、土日共に来客数が回復している。特に、土日の親子3代の客が以前よりも少し動いているように感じる。また、宴会も平均的に入ってきているほか、インバウンド客の動きも堅調である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・今月は天候が悪く、海のレジャーは動きが良くない。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・消費税増税の影響で景気は後退すると予想していたが、意外に影響はあまり大きくないようである。ただし、原材料や燃料価格の上昇、特にガソリン価格の高止まりで、今後は企業収益の改善にブレーキがかかる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みとなり、宿泊は国内旅行を中心に好調である。特に、今年はテーマパークの新アトラクション効果が顕著に表れており、国内外からの観光客が大幅に増加している。下がり続けていた客室収入も、十数年来のレベルとなった。一方、宴会や食堂収入は厳しく、競合店も同じような状況となっている。特に、企業による会合が減少傾向である。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・法人が夏休みに入っているため、動きが鈍い。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・近隣の競合施設に大型のアトラクションがオープンし、その影響が懸念されたが、予想に反して来客数が伸びている。理由の一つとして、施設内では外国人客がかなり目につく。
		遊園地（経営者）	競争相手の様子	・競合各社の投資が活発になっている。
		その他レジャー施設 [イベントホール]（職員）	それ以外	・コンサートは相変わらずの満員で、グッズもよく売れている。特に、先日の人気歌手のコンサートはかつてないほど立ち見客が入ったが、客のほとんどは中高年であった。また、梅田や阿倍野地区の繁華街を平日に歩いても、夏休み中ということもあって人であふれている。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・不動産売買に関する相談が増えている。景気が良くなってきたとまではいえないが、これによって市場が刺激される。
変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き	・9～10日の台風で売上が減少し、その後は回復がみられない。今月は天候不順の影響が大きい。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税前にまとめ買いした商品も6月には底をつき、消費ムードも良くなると思っていたが、大手スーパーや百貨店、家電量販店では、4月後半から投げ売り状態が続いている。客には価格への不信感があり、慣れない外税表示で購買意欲が低下している。特に、高齢者が買物を我慢しており、それでも生活に支障がないことを覚えた。来店頻度の減少が売上悪化につながっている。
		一般小売店 [時計]（経営者）	販売量の動き	・3か月前と日中の暑さの違いを考えると、来客数の若干の落ち込みは仕方がない。販売量についても、腕時計や目覚まし時計の売行きは今一つであるが、修理の依頼は多い。インターネットで時計を購入する動きは増えているが、修理は店頭で持ってくる傾向がみられる。時計を修理して使う客が多いことにも、嬉しさを感じる。
		一般小売店 [事務用品]（経営者）	販売量の動き	・特に変化を感じるような販売の動きはない。天災が続いているため、今後は心配である。
		一般小売店 [菓子]（経営企画担当）	販売量の動き	・8月と5月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は8月が99.3%で、5月が92.6%、関東は8月が99.1%で、5月が94.6%、中部は8月が81.2%で、5月が101.4%、中国は8月が96.9%で、5月が91.8%となり、各地区合計の平均は8月が95.7%で、5月が94.4%であり、相変わらず全国的に非常に悪い。唯一、関西の阿倍野地区だけは好調であるが、ほかの地区では依然として厳しい状態が続いている。これには、8月の台風などによる天候不良も大きく影響している。
		一般小売店 [衣服]（経営者）	お客様の様子	・8月は天候が悪く、客足は減少したが、売上はさほど落ち込んでいない。
		一般小売店 [衣服]（経営者）	販売量の動き	・夏場は衣料品の動きが非常に鈍い。今年の8月も例年どおりの動きであるため、数か月前の悪い状態に比べると、今月が特にひどいわけでもない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・西日本ではお中元商戦での災害が多く、販売量はお盆明けから落ち込んでいる。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・今月の売上だけをみると、天候不順の影響で前年を下回っているが、衣料品や食料品の基調は変わっていない。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・季節商品の限定品などの限られた商品で、低価格品は堅調な売上を示しているが、販売量は大きく伸びていない。また、高額品などは売上、販売量が低迷しており、特にぜひたく品は客から敬遠されている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月は気象などの影響もあり、目標は達成できない見通しである。気象条件以外にも、消費税増税による消費の抑制、取引先による商品在庫の調整による影響もある。客の消費動向は決して積極的とはいえず、一部の客を除いて、今必要な商品だけを購入するという慎重な姿勢が続いている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・耐震工事で売場面積が2割減少している。これが非常に悪い影響を及ぼしており、全体的な入店客の減少につながっている。ただし、来月には耐震工事も終わるので、リニューアル効果も含めて期待できる。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・夏物のセールによる食品売場への波及効果を期待していたが、4月に近隣でスーパーが開業した悪影響がまだ残っている。
		百貨店（外商担当）	来客数の動き	・消費税増税の駆け込み需要の反動減はほとんど感じられなかったが、天候不順などで来客数は前年割れが続いている。特に、夏のバーゲンは婦人服を中心に、大きな盛り上がりもなく終わっている。
		百貨店（サービス担当）	来客数の動き	・今月は台風の影響で土日に雨が多く、夏野菜の高騰のほか、夏物衣料やエアコンなどの家電の売行きが不振であったが、来客数の状況に変化はなく、先月と同じ傾向となっている。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・台風や突然の豪雨など、気象要因による影響が大きい。全体的に来客数が少なく、売上も厳しい状況である。
		百貨店（販促担当）	販売量の動き	・天候不順の影響が大きく、来客数は低調で、夏物の販売が不振である。秋物衣料は比較的堅調に推移しているが、夏の割に気温が上がらず、雨も続いているため、価格が安くても全体的に興味を示さない客が多い。また、高額品も消費税増税前の水準には至らない状況が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・台風などの天候不順の影響で、食品以外の商品を中心に、季節品の売上が大苦戦となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税の影響は和らいでいるはずが、実際にはあまり変わっていない印象である。天候不順もあるが、衣食住のすべてで季節品の動きが鈍くなるなど、客の購買動向には慎重さがみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・人口減少による来客数の減少や、交通の便が良くファミリー層が市外に出してしまうため、土日、祝日の来客数が減少している。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・売上は前年比で95%という状態が続いている。
		スーパー（広報担当）	来客数の動き	・客単価は上昇しているものの、来客数の前年割れが続いている。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・前年に比べてチラシによる訴求を強化した効果もあり、客の買上数は大きく増加している。ただし、競合店の出店があった店舗を中心に来客数が減少しており、売上全体は前年並みにとどまっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・たばこの売上には下げ止まり感がなく、右肩下がりとなっているが、弁当やコーヒーなどの販売が好調で、全体的な売上は維持できている。
		コンビニ（店員）	お客様の様子	・販売量、来客数共に伸び悩んでいる。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・近畿は関東や中部ほどの売上の伸びがみられない。さらに、西日本の天候不順などで、来客数は少なめで推移している。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・駆け込み需要の反動減が今も続いている感がある。特に、夏物家電の動きが悪い。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税から4か月が経過したが、販売量の動きは変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (営業企画)	来客数の動き	・乗客自体は今月後半から明らかに増加しているが、車両単価や成約率などは低下している。
		乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・8月に入っても客の来店が少なく、時間帯も午後集中しており、全体の来客数が増えない。
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・消費税増税以後の売上の落ち込みからは回復しつつあるが、売上がこれまで以上に伸びているわけではない。依然として楽ではなく、売場の全体的な状況は変わっていない。
		その他専門店 [医薬品] (経営者)	販売量の動き	・気温が一番高い季節であり、飲料、殺虫剤などの動きが良くなるはずが、土日に雨や台風が重なったほか、暑くない日も続いたため、販売量が前年比で10～20%減少している。
		その他専門店 [宝石] (経営者)	お客様の様子	・新たに買物をする客は以前よりも減少しているが、修理や金製品目当ての客は相変わらず多い。
		その他専門店 [食品] (経営者)	販売量の動き	・販売量にはあまり変化がなく、減少傾向もみられないが、販売単価はいまだに下降傾向にある。大手の食品販売店などでは、食品は安さが一番という感覚がまだ残っており、こだわり商品などを販売している店はごく一部である。
		その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	お客様の様子	・客は来店しているが、売上に結びつかない。
		その他小売 [インターネット通販] (企画担当)	単価の動き	・買上点数の減少のほか、買上単価の低下が目立っている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・夏休みに入り、繁華街は観光シーズンで食事やカフェの需要が増え、客足は絶えない。一方、オフィス街はお盆休みに入り、集客策などの効果も悪化している。
		一般レストラン (店員)	販売量の動き	・夏には悪化する傾向が、今年はみられない。
		その他飲食 [コーヒーショップ] (店)	来客数の動き	・利用客数、単価共に前年と同じような動きであるが、台風の影響がある分、前年を割り込んでいる。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・観光客は決して減少していないが、日帰りの観光が多い。遠方からの客には、水害の影響でキャンセルがみられる。
		観光型ホテル (経営者)	お客様の様子	・8月の夏休みシーズンであり、地域全体としても家族連れを中心ににぎわう時期であるが、今年はテーマパークの新アトラクション効果で大阪が盛り上がっているため、その波及効果も追い風となっている。ただし、台風11号とそれ以降の天候不順による悪影響もあり、結果的には前年並みの販売量となった。また、売店の売上をはじめ、館内消費が年々減少するなど、付帯売上が低調となっている。
		観光型旅館 (経営者)	単価の動き	・台風11号の影響で、利用客の減少と客単価の低下につながっている。
		観光型旅館 (団体役員)	単価の動き	・宿泊単価が前年、2年前の水準を下回り、上昇の気運がみられない。
		都市型ホテル (総務担当)	単価の動き	・宿泊部門は引き続き好調を維持している。1部屋あたりの販売単価も高水準で推移している。
		都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・宿泊部門は外国人観光客の増加により好調な推移が続いているが、食堂部門は前年を下回る状況が続いている。国内の一部を除き、個人消費全体が低迷している。
		都市型ホテル (客室担当)	単価の動き	・テーマパークの新アトラクション効果もあり、旅行会社からの個人予約が増え、宿泊売上は前年比で110%となっている。
		旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・国内、海外共に、旅行の受付客数は前年を下回っている。海外は客単価の上昇により、金額ベースでは何とか前年を上回っているが、国内は下回っている。
		旅行代理店 (店長)	お客様の様子	・毎月良くなっていると感じていたが、今月は変化がない。料金で旅行を決めるよりも、内容で決める客が多くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税による客の乗り控えが懸念されたが、その心配もなく、比較的順調に推移している。
		通信会社 (社員)	販売量の動き	・夏のボーナス商戦は一段落したが、売上が大きく落ち込むこともない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・前年比で来客数が3か月前と同じぐらいの水準で推移しているため、景気のトレンドは変わっていない。
		競艇場（職員）	単価の動き	・客1人当たりの購買単価は、3か月前と変わらない。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	販売量の動き	・天候要因により業績自体は非常に苦戦している。ただし、天候要因を除くと景気が悪いという感覚はない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・大手スーパーが閉店したため、近隣の2件のスーパーに客が流れている。その結果、閉店したスーパーの前にあった店も閉店となっている。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	お客様の様子	・数年前に比べると良くなっているが、ここへきて停滞感が出てきており、これ以上は良くならないという不安を感じている客が多い。経営者は、長く続く好景気などあり得ないと考えているので、今のうちに少しでも業績をアップさせようとしている。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	販売量の動き	・稼ぎ時の夏休みであるが、レンタルの平均売上は期待外れの前年割れとなっている。ただし、カフェやコミックのレンタル、文具販売などは好調である。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・営業状況については、特に変化がみられない。
		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税に伴う負担増の影響か、金額面で条件の厳しい客が多く、成約までに時間がかかる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	お客様の様子	・不動産取引については横ばいである。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・新築分譲マンションの価格上昇が予想されるなか、その顕著な動きがまだ出てきていないことから、景況感の変化はまだ表面化していない。
やや悪くなっている		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	お客様の様子	・8月に限って言えば、台風や天候の影響が大きいですが、全体的にはお中元などの需要が減っている。ただし、その分が日々のおかずの購入に回るわけではなく、レジャーや携帯電話料金などに割かれている。この動きで景気を判断するのは難しく、業界による好不調の差が大きくなっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上が前年比で5%減少している。例年、盆明けは下降気味であるが、今年は特に悪い。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	販売量の動き	・天候不順で物の値段が高くなり、ますます動きが悪くなっている。
		一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・暑さのせい、販売量、来客数共に厳しい状況である。
		百貨店（服飾品担当）	販売量の動き	・消費税増税後、徐々に戻ってきていた売上が、7月後半から8月にかけて少し停滞気味になっている。4～5月に前年比で70%から80%に落ち込んでいた化粧品が、6～7月には90%台にまで回復したものの、8月も前年の売上には戻っていない。増税後に買物動向が変化し、節約志向の強い顧客が全体の約5%から8%ぐらいに増えている。
		百貨店（営業企画）	来客数の動き	・天候状況があまりに悪く、どの程度の影響が出るかは予想が難しい。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・8月は暑い、日中は外出を控えているのか、客が少ないように感じる。また、食欲も感じられないような、非常に慎重な買い方となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年と比べてそれほど暑くならず、飲料や涼味商品などの売行きが悪い。また、お盆商戦の期間中は、台風などの天候不順の影響で売上は前年を下回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今夏は天候不順で来客数が減少している。また、当初いわれていたような賃金の増加がみられない一方、商品の値上げは順番に進んでいるため、支出の増加は見込めない。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・本当に必要な物で、バーゲンで安くなっている商品だけを購入しており、おしゃれをする余裕がみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		その他専門店 〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・第1四半期だけで消費税増税の影響がなくなるとは思わなくなっている。	
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・これまでワインをボトルで注文してくれていた客が、最近はグラス単位でしか飲まなくなっている。	
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・天候要因もあるが、高齢者の来客数が減少し、以前は少なかった領収書を書いてほしいという客が増えている。	
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・豪雨によるキャンセルのほか、バス料金の改定もあるなど、先の見通しが立たない。	
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・天候不順の影響が大きい。豪雨被害の報道などで、旅行を少し控えるという客の声も聞かれる。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の動きをみていると、日に日に悪化しているように感じる。公共交通機関を利用する人が増えている。	
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・消費税増税による駆け込み需要の反動減が続いている。	
		パチンコ店（店員）	来客数の動き	・来客数が減少している。	
		美容室（店長）	販売量の動き	・例年に比べて化粧品のまとめ買いが少ないなど、消費税増税の影響が続いている。	
		住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・新築マンションの販売状況は、一部で好調な物件が目立っているが、全体的には苦戦する物件が増え始めている。	
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場の8月の来場数は、台風の影響もあってかなり落ち込んでいる。	
		悪くなっている	一般小売店〔衣服〕（経営者）	お客様の様子	・8月は各店舗の売上が前年比で5～7%減少している。天候要因もあるが、衣料品に対する客の購入意欲がみられない。
			一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	来客数の動き	・消費税増税の影響が続いている。
			衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・天候不順などの事情はあるものの、財布のひもが固い。
家電量販店（企画担当）	販売量の動き		・8月の悪天候により消費の冷え込みが目立つ。また、お盆休みの帰省などに支出が回され、家電商品の購入が見込めない。		
企業動向関連（近畿）	良くなっている やや良くなっている	○	○	○	
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税以降は売上の前年割れが続いていたが、やっと今月に入って前年を上回ることができた。増税後の4か月分のマイナスを取り返すまでには、もう少しかかりそうである。商品別には家庭用が少し上向きになってきているが、業務用が少し停滞している。	
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6、7月と非常に悪かったが、ここへきて売上もようやく昨年並みに戻ってきている。	
		金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の回復の動きが思っていたよりも弱い。特に住宅関連が良くない。	
		金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・関西の物件に目立った動きはないが、名古屋駅前の物件が動き始めたため、出荷量が増えている。	
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内設備投資が前年比で15%増えており、国内での引き合い件数が増加傾向にある。	
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・ここへきて、ようやく8か月間停滞していた円ドルレートが円安方向に動き出している。	
		コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・数か月前に比べると微増であるが、昨年よりも明らかに受注量が増加している。	
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ビルの管理業では受注量は増えているが、管理している物件の清掃パートなどの人員確保が非常に難しくなっている。以前から働いているパートの間にも、ほかに楽な仕事があるので、いつでも辞めると言う考えの人が増えている。このままでは、受注してもサービス提供が困難になっていく。	
		変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・稼働日数を考慮すると変化はない。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は消費税増税前で非常に売上が伸び、その受注残が4月までであったものの、5月以降は悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・盆休みで稼働日数が少なかったため、全体的にはあまり良くないが、1日当たりの稼働状態は改善している。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先からの引き合いが増えている。
		一般機械器具製造業（設計担当）	取引先の様子	・取引先からの受注量は増えつつあるが、金額が抑えられている。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・アベノミクスで景気が良くなるということであったが、なかなか製造業には浸透せず、ようやく5月ごろから設備投資の引き合いが増えてきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気の全体的な環境が悪いときは、特に受注量や販売量の推移が気になる。引き合いは相当活発であるが、顧客は資金繰りに相当苦労している。顧客の現場スタッフは設備の新設を強く希望しているが、予算が認められないという声をよく聞く。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・今月は天気の悪い日が多く、例年に比べて気温が低いことから、エアコンなどの夏物商品の荷動きが鈍い。また、テレビなどのAV関連商品も荷動きが鈍化傾向にある。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注、売上共に横ばいである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・今年はお盆の仕事が入っていない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・戸建住宅の着工戸数の減少に比例して、受注量が減少している。家具関係は消費税増税後の駆け込み需要の反動減が大きい。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・きっかけがあれば設備投資を行う意思はあると感じるが、積極的に設備の更新投資を行う考えはないようである。表面的な景気は良い雰囲気があるものの、本当に良いのか、一過性の動きなのかを見極める傾向が強い。
		その他製造業 [事務用品] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・売上、販売量共に変化がない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・案件は増えているが、価格は依然として厳しく、利益が伸びない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べると、受注量や引き合いなどはあまり変わっていない。関東方面では業者が少ないことによる引き合いもあるが、それに対しては当方の対応が難しい。
		通信業（管理担当）	それ以外	・天候不順の影響があるのか、夏休みに入った割には、良くも悪くもなっていない。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスにより景気は上向きとなったが、中小企業の間では長続きしなかった。消費税率の引上げ後は低迷傾向に変化し、それ以降は横ばいの状態である。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・神戸から事業所の撤退が続いている。事務所の空室が増え、社宅などの必要もなくなっている。それに伴い、賃料の低下や空室率の上昇が進み、神戸の景気が悪くなっている。
		新聞販売店 [広告] (店主)	受注量や販売量の動き	・8月になると、折込件数はいつも落ちるので何ともいえないが、購読数は維持できている。
		広告代理店 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・この1か月ぐらい、広告出稿には大きな動きがみられない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・顧客企業の設備投資や事業開発費には、一定の予算が計上されている。その予算は予定どおり執行されており、低減や見直しの動きはない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・主に関西の家電メーカーの関連会社がクライアントであるが、やや回復傾向にあるといわれながらも、全体としては変わらない状況である。
		その他サービス [自動車修理] (経営者)	受注量や販売量の動き	・盆休みが終わっても忙しくならない。
		その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	取引先の様子	・工具の卸売では、夏はスポットクーラーなどの注文が増えるが、天候などに大きく左右される。今年は8月に大きな台風や雨が多く、気温も上がらなかったため、非常に商品の動きが悪く、前年を下回っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	食料品製造業（経理担当）	取引先の様子	・天候不順のほか、消費税増税による影響が徐々に出ており、受注が小規模になってきている。
		食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・8月中旬までは、天候不順で飲料水の売上が前年と比べてかなり悪い。月下旬の天候は良かったが、トータルでは悪いままである。
		繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・流通先での在庫が減ってないため、新規の受注が減っている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・業界別には戸建住宅関連の販売促進が低迷しており、秋から年末にかけての販促に期待したい。一方、医療業界ではジェネリック医薬品の利用が増加を続けている。また、安全基準の見直しに伴い、書類の改定やネットでの配信が多くなっている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・国内の建築関連の受注が、前年比で約15%減少している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・例年、お盆期間中は売上が伸びるが、今年は全く増えておらず、配達の手を減らしたほどである。家具をはじめ、別になくともよい物の購入は後回しにされている。
		輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・関西国際空港での輸入貨物の配送が減少している。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体、インターネット媒体共に、前年の売上を大きく割り込んでいる。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・不要不急の商品に対しては、財布のひもが予想以上に固い。消費税増税後は依然として商況は改善していないというのが実感である。一方、最近の天候不順が消費に与える影響は大きく、特に寝具やインテリア商品といった高額商品への需要が更に減少している。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・8月は稼働日が少ないということもあるが、キャンペーンを打っても顧客の反応は良くなく、受注量や販売量は増えていない。
	悪くなっている	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・生産量は7月に続き、8月も前年比で約87%と大幅なマイナスとなっている。消費税増税の影響のほか、タオルの輸入の増加で深刻な状況にある。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・既存の仕事の発注量が小口化するなど、必要な分を必要だけ発注する動きが徹底されている。
雇用関連 (近畿)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	雇用形態の様子	・これまでは短期的な案件も多かったが、現在は中長期的な案件が増えてきている。契約期間でいえば、半年などの契約を結ぶ企業が増えている。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・企業の求人数は減っていない。特に、正社員、紹介予定派遣といった無期雇用の求人が多くなっている。その一方、労働契約法や労働者派遣法の改正による影響で、人材派遣に対する応募者の数が少なくなっている。
		人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・5～6月が最悪であっただけに、求人数、求職者共に若干上向いている。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・臨時求人を出したところ、応募の動きがみられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の出稿の推移をみると、百貨店、流通、不動産など、関西の地場企業による出稿が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は引き続き増加傾向にある。業種別にみても、大きな割合を占める製造業や小売業で大きな伸びを示している。派遣業からの求人も増加しており、製造業へのまとまった派遣もみられる。一方、求職者は引き続き減少傾向である。
		民間職業紹介機関（支社長）	採用者数の動き	・採用者数は底堅く推移しており、人手不足による若手の採用も増えている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・中途採用の需要が出てきている。人材の供給が追いつかない状況で、派遣社員よりも正社員や契約社員の需要が増えつつある。中小企業の経営者は、総じて下半期の景気は良くなると考えている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は一定数あるが、長期的な需要ではなく、期間限定業務が増加傾向にあるように感じる。
アウトソーシング企業（営業担当）		求人数の動き	・ITエンジニアや医薬情報担当者などの職種では需給バランスが崩れており、米国の大手金融機関の破たん前にみられた売手市場にほぼ戻っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・大型商業施設の開業効果も落ち着き、安定した状況にある。その一方、海外からの来訪客が増加し、ホテルなどのサービス業では人手不足となっている。アルバイトの募集単価も上昇している。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・当社が取り扱っている新聞求人広告は、3か月前に比べてやや落ち込みがみられる。ただし、求人に限らず、このところは新聞広告全体に鈍化傾向がみられることから、景気の悪化というよりも、インターネットの活用に伴う新聞への依存度の低下が遠因とみられる。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数の伸びには若干の落ち着きが感じられるものの、正社員の求人数は堅調に増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で6.1%増加しているものの、正社員求人は増加していない。また、産業別には建設や医療関連で有資格者の求人が増加しているが、実際の採用に結びついていない。また、中小企業の求人では、社員の高齢化に伴う後継者の求人が多く、受注の増加に伴う求人は自動車などの限られた業種となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・職種にもよるが、建設業では土木技術者の募集が県内では充足しないため、他府県に依頼する事業所もある。また、有料の広告を利用しても効果がなかったため、職業安定所に求人を出す動きもある。景気は良い状況にあるが、3か月前も良かったことから、全体的にはあまり変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・下請の建設業者は人手を確保できる範囲内でしか工事を受けないため、日雇い求人は頭打ちの状態が続いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・今月は、百貨店などの大規模商業施設を訪れる機会が多かったが、客足が鈍いように感じた。客が多いのは、子ども用品売場などの限られた場所だけである。
	やや悪くなっている	○	○	○
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・新聞への広告出稿量をみると、ここ数か月は明らかに減少している。

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (中国)	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年に比べてバーゲンの売上は今一つであったが、正価品の売上が良く、特にコート等の動きが良かった。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・客数は前年並みであるが、単価がやや上向きである。
		スーパー（営業システム担当）	それ以外	・近隣の大型店が改装するため、一時閉店となっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数と販売量がともに増加している。天候が悪いなかであるが、景気は良くなっている。
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・販売量は3か月前より増え前年比でも微増しており、景気はやや良くなっている。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・土砂災害以降は来客数が減少したが、盆前までは前年の90%と回復傾向にあった。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・客単価がやや上がってきている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・例年より帰省客が多い。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	単価の動き	・夏物セールが終わり売場は秋物に変化しつつある。客の反応は良く、客単価も上昇している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	単価の動き	・消費税増税後の買い控えも落ち着き、若干ではあるが高付加価値な高額品の売上が好調になってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン(店長)	来客数の動き	・前年8月は一昨年に比べ売上が大きく伸びた月であったため、今年8月の伸びは小さいと予想していたが、予想以上の伸びがあった。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・ランチの来客数が伸びている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・当営業所の売上は前年の98%であるが、他の営業所はプラスのところが多かった。全体の売上はプラス1.2%であった。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・盆前後は商品説明に対する客の反応が良かった。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・8月初旬に開催したレースで電話投票や協力他場売上が良かった。9月初旬のレースの売上も順調である。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・消費税増税に伴う反動減は落ち着きを見せ始め、木造住宅の耐震補強工事などの動きが出てきた。
		住宅販売会社(販売担当)	お客様の様子	・以前よりも客の動きが出てきている。住宅取得への意欲はあるが、客からは慎重に検討する様子が見える。
変わらない		商店街(代表者)	お客様の様子	・天候不順や土砂災害等の影響で、消費マインドの低下を感じる。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・客には必要以上に買物する感じはなく、相変わらず財布のひもが固い。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・店頭で品定めする客の姿が目立つ。数点購入する予定で来店した客が、結局は1点のみ購入する場合もある。
		一般小売店〔食品〕(経営者)	来客数の動き	・消費税増税と円安による物価上昇で客の動きは鈍い。
		百貨店(経理担当)	販売量の動き	・売上が前年より減少する傾向が続いている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・8月も前月に引き続き景気は良くない。前年同月比で100%を超えている店舗が約40%と、前月に比べて少し増えてはいる。店長の感覚では雨の多い天候のせい、消費税増税の影響が残っているのか原因は分からないが、景気は上向いていないとのことである。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・当地においても日照不足と長雨が顕著である。台風の影響は盆帰省マーケットを直撃した感があり、観光地や当店の客数は大きく前年を下回り、土産を中心とした食品の売上や夏物セールスの低迷につながる。気温低下により期待した秋物衣料もヤング向けだけが好調で、主力のミセス向けは先行購買の動きがみえてこない。
		百貨店(購買担当)	お客様の様子	・消費税増税の影響が続いており、美術品や宝石といった高額商品は厳しい状況である。8月後半から気候が秋めいてきたため衣料品では秋物が売れ始めているが、景気が良くなったとは言えない。
		百貨店(売場担当)	お客様の様子	・盆明け以降の天候不順や近県での土砂災害の影響もあり、客の購買意欲が少し減退している。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数や客単価に大きな変化はない。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数は前年の97%、客単価は前年の103%であり、3か月前からほとんど変化がない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・天候不順で夏物商品の販売が伸びない。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・客は特売品やポイント付与などをみて、来店や購入を検討している。
		スーパー(業務開発担当)	販売量の動き	・平均単価が4～5%上昇しているため、売上は前年を上回っているが、来客数と販売点数は前年割れが続いている。
		コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・8月は天候不順や気温低下により、前年に比べて中食を中心に販売量が減少している。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・販売数の前年割れが継続している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(所長)	お客様の様子	・天候不順や低い気温により来客数は微減であるが、客単価がファッションを中心に上昇しており、客の購買意欲は感じられる。
高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・土砂災害の影響もあり、8月に入って個人利用が減少している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィークやお盆期間など、長期連休での個人客の需要は年々高くなっているが、単価の上昇は鈍い。原油高騰や物価上昇の懸念が払しょくできず、客の消費マインドは低迷している。		
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・通常年ならば夏は大きな需要がある時期であるが、今年は期待値まで届いていない。		
		タクシー運転手	来客数の動き	・8月は雨が多く当地で土砂災害が発生したこともあり、人の動きが多かったため、乗車率が多少上がっている。		
		通信会社(広報担当)	販売量の動き	・特に販売量が増えるというような動きはない。		
		通信会社(販売企画担当)	お客様の様子	・6～7月と比べて客足に大きな変化はない。		
		通信会社(総務担当)	お客様の様子	・加入申込件数が引き続き好調である。		
		テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・前年同月と比較して来客数に変動はない。		
		テーマパーク (営業担当)	来客数の動き	・天候が不安定だったので、8月の来客数は前年を下回った。		
		ゴルフ場(営業担当)	お客様の様子	・悪天候の影響で集客が伸びない。		
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・景気は良くなっていない。		
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・客は仕事が増えて忙しいようであるが、客からの恩恵はなく、以前と比べて売上に変化はない。		
		その他サービス [介護サービス] (介護サービス担当)	お客様の様子	・利用者やその家族からは景気の変化がうかがえる話や消費税増税の話題は聞かれない。		
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・消費税増税後から客の動きが好転しないため、景気に大きな変化はない。		
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・景気が好転する要因が見つからない。客の財布のひもが固くなってきている。		
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・次の消費税増税が実施される前に建築しようとするクライアントの引き合いが増えている。		
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税後に落ち込んだ受注件数はいまだに回復せず、この数か月は低調な動きで推移している。		
		住宅販売会社 (営業担当)	来客数の動き	・暑い時期でありイベント等を実施していないため、客にあまり動きはない。		
		やや悪くなっている		商店街(理事)	お客様の様子	・天候不順による野菜価格の高騰やガソリンの値上がりなど、日常生活に不安材料があり、客に生活防衛的な様子が見受けられる。
				商店街(代表者)	来客数の動き	・消費税増税直後に比べると来客数がかなり悪くなっている。客はだんだんと重税感を感じている。
				商店街(代表者)	来客数の動き	・景気ウォッチャーの指数は3か月連続で改善しているが、都市部に限られた話である。5月の連休明けから来客数や販売量の下降が続いている。とくに7月終わりから8月上旬にかけて天候不順が続いたことが大きい。
商店街(代表者)	単価の動き			・消費税増税の影響がますます出ている。さらに集中豪雨と土砂災害の影響で客の購買意欲は低下している。		
一般小売店[印章] (経営者)	来客数の動き			・雨の日が極端に多く、来客数が少なく売上が少し落ちている。夏休みにもかかわらず、周辺の行楽地も来訪者が少ないようである。		
一般小売店[酒店] (経営者)	販売量の動き			・天候不順の影響も多少あるかもしれないが、お中元商戦やお盆でも販売量は期待したほどは増えなかった。一時的には忙しくなるが継続しない。		
一般小売店[靴] (経営者)	販売量の動き			・8月は前年の売上を大きく割り込み、今までにない落ち込みとなった。理由がわからず困惑している。		
百貨店(営業担当)	来客数の動き			・8月の集客ポイントになる売り尽くしセールは期間中に集中豪雨があった影響で、来客数が前年の93%と大きく下回っている。来客数に比例して売上也厳しい状況である。		
百貨店(売場担当)	販売量の動き			・雨が多かった影響で夏物衣料の売行きが悪い。また当地で大規模土砂災害が発生し、客の消費マインドが下がっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・7月末に回復基調にあった盛夏商品の売上が8月に入ってから失速した。月初からの度重なる大雨と土砂災害により、夏物最終セールが盛り上がらない。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・天候不順により季節商品の動きが鈍いうえ、夏行事中止によるキャンセルも重なり、売上へのマイナスの影響が大きい。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・客が節約のために買いまわり、買上点数が減少している。
		コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・天候が悪く外出を控えるため、客数が減少した。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・客はお中元商品等、夏の贈答品については控えみである。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・客はリクルートスーツや礼服などの必要品は買いに来るが、それ以外を購入する客が減っている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・冷夏でエアコン、冷蔵庫や扇風機等の夏物家電品の売行きが悪い。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・天候不順による野菜の価格高騰で、客の財布のひもは固くなっている。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・天候不順で季節商品であるエアコンが売れなかった。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・消費税増税の影響から8月の受注は前年の70%と、依然厳しい状況が続いている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・景気が良くなっている実感は全くない。多忙なのは建築や建設関連の会社だけで、当業界の売上は相変わらず前年割れである。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・お盆の帰省等でも消費税増税により客の財布のひもは固いままである。冬商戦までは厳しい状況が続く。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・夏休みのレジャー需要は一部の業界に恩恵があるだけで、また消費者の所得も伸びていないため、一般の景況感は悪いままである。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・暑い日や雨が続くため、客は疲れてしまい買物する意欲が減退している。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、売上も悪い。台風の影響や雨が多かったことがマイナス要因である。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・夏期は飲食店の客単価が上昇する時期である。今年の客単価は税込み金額では前年並みであるが、税抜きになると低下している。特に1組当たりの単価はファミリー客を中心に落ちている。
		一般レストラン（外食事業担当）	来客数の動き	・来客数が前年を割っている。6月は前年の103%、7月は96%であったが、8月は盆を過ぎた時点で95%である。天候の影響もあるが、だんだんと来客数が減少しており不安である。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	来客数の動き	・週末の悪天候の影響もあるが、来客数が減少している。夏休みも終わるので、秋の観光シーズンが始まるまでは、客の動きは好転しない。
		観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・8月は天候不順の影響もあり、売上は前年比で大きくマイナスである。春からの客の動向をみると、企業利用に比べて個人利用が伸びていない。
		観光型ホテル（宿泊予約担当）	来客数の動き	・個人受注の伸び悩みが続いており、回復の兆しはない。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊部門は海外からの来客数が好調に推移しているが、国内客数が伸び悩み、全体では減少している。レストラン部門は高額単価店舗だけでなく、他の店舗でも来客数が減少している。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・天候が旅行に適さない状況にあり、客は旅行どころではない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・前年同月にはなかった受託事業が売上増加に貢献しているが、夜の仕事を含めた全体売上は減少している。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・台風の接近や長雨の影響で来客数が少ない。
	悪くなっている	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・雨が多く、気温も低いいため、夏物衣料の売上が不振であった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、来客数の減少が著しい。夏物処分品の消化が例年にならぬほど悪く、売上や利益は苦戦を強いられている。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響で車にかかる金の優先順位がかなり下がっている。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・盆までは景気は悪くなかったが、土砂災害の影響で人の動きが止まっている。
企業動向関連 (中国)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の秋の定期修理期間を控え、前倒しで生産しているため、受注量はわずかながら増加している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・7月の売上は米国大手金融機関の破たん前のレベルに回復した。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注の引き合いが増加している。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・製造業を中心に、今期から来期にかけて情報系の投資に関する引き合いが、前年同期と比較して増加している。
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーは休日出勤を含む高操業を維持しており、業績は増収増益を継続している。
		金融業（貸付担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の4～6月の試算表では、前年同月比で減収となる取引先が多かったが、7月に入って前年水準を回復している取引先が増加した。中には、前年同月比10%以上の増収となっている企業もあり、景気はやや良くなっている。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の商品は湯をかけてつくる商品が多いため、今までは夏場が弱かった。今年は予想したほど売上が落ちず、夏商戦を乗り切れそうである。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の反動減が続いている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・一部の業界は景気が良いようであるが、経済全体の底上げまでは至っておらず、当社のような素材型化学工業では景気が良くなっている実感はない。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向けの注文は安定的であり、各地の焼却場の工事も低調で大きな変化はない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・客の分野により濃淡はあるものの、各分野とも販売量は安定しており、生産量も高水準で推移している。
		非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量と販売量に特段の変化はない。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注がここ3か月は同水準で推移しており、生産能力の約70%に留まっている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・受注量は確保できているが、原材料、ガソリンや輸送コスト等の値上がり分を製品価格に転嫁できず、適正な利益の確保が厳しい。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・新製品の出荷が遅れているが、現行製品がカバーしている。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・一定の仕事量は確保しているが、海外メーカーとの競合や船価等により採算性は依然として改善されていない。
		建設業（経営者）	それ以外	・仕事量はあるが、今夏の異常気象の影響や、建設業界がずっと技能者や職人を減らしてきており必要な人数の確保が難しいため、仕事を請け負にくい状況にある。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中堅企業の通信機器などの更改や設備投資は例月どおりで、受注量も変動が少ない。零細企業や商店等のSOHO市場の景況感も改善しているようには思えない。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数と成約件数はともに横ばいである。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・製造業にはまだ活気が残っているが、小売業やサービス業は天候不順の影響もあるのか、売上が前年に比べてやや低下している。また建設業は仕事があるが、人手不足で受注を確保できず、前年よりも売上が低下しているところもある。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先の状況が悪化している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・円安の進行で海外からの材料輸入価格が上昇しており、製品原価の上昇圧力が非常に強くなってきている。
		建設業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・契約時に想定した原価に対し、工種全般において人件費や資機材費が想定を大幅に上回り、その差額を転嫁できないケースが増えてくる。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・企業の荷動きや個人消費の動きがやや落ち込み始め、来客数も若干減少している。また土砂災害等の影響で荷動きが滞っている。
		輸送業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響は小幅で収まり、荷動きや倉庫保管数量は増加すると見込んでいたが、いまだに荷動きは鈍く、数量も増加してこない。
		広告代理店(営業担当)	受注量や販売量の動き	・客からの受注量が減少している。受注見込みも減少傾向にあり、回復が見込めない。
	悪くなっている	農林水産業(従業者)	それ以外	・7月は4月と比較すると、水揚げ量は1,030tの減少、水揚げ金額は1億9,430万円の減少であった。7月単月の前年比は、水揚げ量が616tの減少で前年の53%、水揚げ金額は1億4,900万円の減少で前年の66.5%であった。
		食料品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・無駄な物は買わないという客の志向がより一層強くなっている。受注量が目に見えて減少している。
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社(採用支援担当)	求人数の動き	・新規企業からの問い合わせが増えている。
(中国)	やや良くなっている	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・採用に積極的な企業が7月に入って規模の大小を問わず増えている。求職者の反応は良いとは言えず、企業が募集してもマッチングしない現象が起きている。このアンマッチを解消すればもっと景気回復が進むはずであるが、現状は少し景気回復を妨げている。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	求人数の動き	・例年と比較して採用数を増やす企業が増えている。また採用数増加に備え、採用活動を早期化する企業が増えている。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・6月の有効求人倍率は1.5倍の高水準であった。大型病院や大型ショッピングモールの新築工事が大きく寄与している。特に大型ショッピングモールは約2,000人の雇用を生むことから、人材確保上の問題からパート時給や他店の契約社員の賃金も上がっている。
		職業安定所(雇用開発担当)	求人数の動き	・前年同月と比較して求人数は増加し、求職者数は減少している。正社員求人倍率についても、ゆっくりではあるが、上昇している。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	それ以外	・人手不足の業種は建設業や介護関係にとどまらず、小売業や製造業にも広がっており、賃金見直しなどの求人内容の変更が増加している。
		変わらない	求人情報誌製作会社(広告担当)	採用者数の動き
	民間職業紹介機関(職員)		採用者数の動き	・企業の採用意欲自体は高いが、同様に正社員として採用するハードルも高い。
	学校[短期大学](学生支援担当)		求人数の動き	・テレビは景気が良くなっていると報道するが、変化は特に感じられない。
	その他雇用の動向を把握できる者[労働機関](職員)		求職者数の動き	・新規求職者のうち、在職者数は前年比で1割増加した。その一方、離職者数は1割強減少している。離職者のうち会社都合の離職者数は2割強減少した。また労働市場の改善から、転職を希望する自己都合離職者の割合が増加傾向である。
	やや悪くなっている	人材派遣会社(支社長)	求人数の動き	・景気の影響か、季節的な要因か、または複合的なものか不明であるが、高水準で推移していた事務職の求人数が落ち込み始めている。
人材派遣会社(経営企画担当)		求職者数の動き	・企業にとって求職者確保が困難を極めている。とくに若年層の動きや募集採用状況については、緊急な対応が必要である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている やや良く なっている	スーパー（店 長）	単価の動き	・一時の消費税増税の影響が薄れてきている。高単価の商品も、徐々に売りやすくなってきている。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・盆商戦は生鮮食品を中心に順調であった。消費税増税後の反動がさらに弱まり、買上点数が前年並みに回復してきている。
		スーパー（財務 担当）	単価の動き	・生鮮関係が好調を維持している。全体では、前年比プラスの売上となっている。
		コンビニ（店 長）	単価の動き	・競合店の出店で客数は減少しているが、客単価と買上点数は微増しており、景気はやや上向いている。
		観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・若い人たちにも物品購入にお金を使う、旅行やレジャーにもお金を使うというような動きが出てきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて、やや良くなっている。前年比では、客の乗車率、単価、売上等は2割くらい下落しているが、今年は例年になく雨量が多かったことが要因だろう。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・前月比・3か月前比・前年比とも売上は減少しているものの、お盆レースが開催された8月は一定の売上を確保した。
	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・ここ数年日本は大きな天災被害が続いており、景気回復の足を引っ張っているのではないかと。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・売上は前年並みで推移しているが、顧客単価が減少傾向にあり、薄利多売で何とか営業している状態である。消費税増税以降、顧客の可処分所得が、まだ回復しているようにはみえない。
		スーパー（企画 担当）	単価の動き	・台風など気象の影響で価格が上昇し買上が伸びているが、来店客数は従来とほとんど変化がない。
		衣料品専門店 （総務担当）	販売量の動き	・8月は2つの台風の影響により来客数が大きく減少し、営業時間の短縮も余儀なくされたため、売上は前年を下回っている。また気温が比較的低温で推移しているため、夏物の最終セールにマイナスの影響が出ている。
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・消費税増税後の落ち込みが回復せず、横ばいで推移している。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響は薄れてきたようにみえるが、販売量の回復には至らない。年末に向けて期待している。
		乗用車販売店 （役員）	販売量の動き	・8月に入っても、新車受注は低調である。他社の新車広告もあまり載っていない。9月以降も新車販売が前年並みまで回復するのは難しい。
		その他小売 [ショッピング センター]（支 配人）	販売量の動き	・今月は天候不順によるマイナスの要因が非常に大きい。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・夏休みや盆休みのある8月は、顧客が会社員中心の当店は、例年と変わらない。
		都市型ホテル （経営者）	単価の動き	・台風と大雨の影響でイベント等の中止があったため、客足は低調であった。
		通信会社（企 画）	お客様の様子	・ここ数か月、客からの問い合わせ件数が増えていたが、今月は減少し、平年程度に落ち着いた。
		通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・新商品発売前であり、買い控えの傾向が出てきている。
		美容室（経営 者）	お客様の様子	・夏休みで子供の来店が多いものの、売上は変わらない。
設計事務所（所 長）	販売量の動き	・現時点で今年度の受注目標がおおむね達成見込みになった。		
やや悪く なっている	商店街（事務局 長）	販売量の動き	・週末ごとに天候不順となり、購買意欲がそがれている。消費税増税の反動減は予想以上に長期化し、年末まで及ぶのではないかとみている。プレミアム感のあるものや高額でも限定品等には人気が集まり、消費の下支えとなっている。	
	商店街（代表 者）	それ以外	・天候不順が景気を押し下げているように思う。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・来客が少し減少した。繁華街を歩く人も少なく、近隣の店舗も来客数が少なめだったようだ。無難な商品が売れ筋で、高級品の動きは悪い。		
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・近隣の店が閉店し、人の流れが変わってきた。店頭売上、外商売上ともに前年割れである。		
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・8月は販売量、来客数ともに動きが鈍くなっている。		
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・食品は堅調に推移したが、主力の衣料品や高額品が、天候不順（雨天・冷夏）や依然として続く消費税増税の影響により苦戦中。		
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・客数減と買上点数減の状況が続く。		
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・7月中旬より昨年比マイナスに転じ、8月は天候不順が重なり、ここ何年来の低調な数字となった。		
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・8月は台風や雨が続き、特に週末に天気の良かった日がほとんどなかったこともあり客足は鈍かった。平日も来客数は振るわず、おそらく天候以外にも何か原因があるのだろう。		
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税による受注減は厳しさを増しており、この状況は今後も継続するだろう。		
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	お客様の様子	・中国産鶏肉偽装問題で、鶏肉関係の売上が激減している。原材料不安が助長され外食産業全体に波及しているようだ。		
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・国内では関西圏を中心に旅行客が増えているが、度重なる台風や豪雨の影響で全般的に旅行客の減少が目立つ。		
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は悪天候が客足に影響した。来場者、売上とも落ちている。		
		悪くなっている		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・納入商品の価格上昇等で物が売れない状態が続いている。
				コンビニ（総務）	来客数の動き	・土日やお盆など、稼ぎ時の天候不順や台風によって売上が悪化している。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き			・8月単月で過去最低の販売台数となり、4月以降もっとも悪い月となってしまった。		
タクシー運転手	来客数の動き			・夏場はお遍路客が少ない。今年は天候が悪かったこともあり、収入はかなり落ちた。		
美容室（経営者）	単価の動き			・台風や大雨などの天候不順で来客数の落ち込みが大きく、さらに客単価も変わらず、低調な状況が続く。		
企業動向関連 (四国)	良く なっている	—	—	—		
	やや良く なっている	鉄鋼業（総務部長）	受注価格や販売価格の動き	・主力造船会社との受注価格交渉において若干の値戻しがあり、採算面においてやや好転している。		
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・台風の影響で供給量が減少し、販売価格が高値となっている。		
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新しい分野への取り組みを行っている店は順調である。		
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外は地域差があるものの、国内の販売状況は引き続き堅調。		
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中型の太陽光発電設備についての問い合わせが多く、施工も多い。またメガソーラー設計も始まっている。当社を取り巻く景気は良いのではないかと。		
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量とも減っている。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の新規発注が順調であることから、売上が大きく減らすことなく推移している。3か月前と比べて、数値はやや下がっている程度で影響は小さい。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・官民とも、なかなか受注に結びつかない。		
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・特に大きな変化を感じない。		
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・製造業は増収・増益傾向がみられるが、小売業は消費税増税後の反動減の影響を受けて、減益・減収となっている。		
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税以降、得意先の売上の回復が遅れており、販売促進費が抑えられている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算、月次の試算表の売上面をみると、前年とほとんど変わらない。損益面ではマイナスになっている企業が増えている。
	やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月が一番の閑散期なので、受注量は少ない。例年同様9月以降は徐々に増加していくはずである。
		輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・景気低迷の影響を受け取扱物量が減少傾向にある。8月上旬に四国を直撃した台風の影響で、被災した荷主が多数出たことから、取扱物量の減少に更に拍車をかける形となった。四国島外より青果物が流入する時期であるが、台風の影響で近隣の産地からの流通が停滞、全国的に販売価格が高止まりとなった事から、消費動向も下向きとなり受注量が減少、取扱物量も著しく減少した。
	悪くなっている	輸送業（支店長）	それ以外	・燃油価格の高止まり、高速道路料金の割引率の引き下げや人件費の高騰などの要因が顕著。
雇用関連	良くなっている	—	—	—
(四国)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数では前年比12%減少、雇用保険受給者数では前年比24%減少しており、在職者である雇用保険被保険者数は昨年より約1300人増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・7月の月間有効求人倍率は1.04倍で、3か月前と比較して0.03ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・建設業や医療・介護等以前から不足している業種に求人が偏っており、全体的な景気上昇は感じられない。
		人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・人手不足による求人件数は増加傾向の上半期だが、思うような人材が集まらず、業務の見直しと併せ求人ニーズも少し落ちている傾向にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・8月は集中豪雨や台風などの悪天候が加わり、折込チラシ・イベントなどの販売直結部門が特に不調。家電関連は積極的に販促していたが客数は少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・景気が良いことで、労働力不足の影響が、ほぼすべての産業にみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・採用者数は、来春用の人員を今春以上に増やそうとする企業は少ない。また、中途採用についても、欠員補充ということでの採用はあるが、将来を見据えて人員を拡充しようとする企業は少ない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣登録する求職者が減少しており、求人に対応できていない。ミスマッチも多く就労に繋がりにくい。
	悪くなっている	—	—	—

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	—	—	—
(九州)	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税の影響により、4月よりは少し良くなっているが、まだかなり低い水準にある状況で、販売量、単価共に下がっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・長雨の影響はあったが、旅行関連商品の需要があり、来客数が伸びた。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響がやや和らいだ。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・今月は天候不順で青果物は動きが悪いが、身の回り品については食品を中心に少し回復している。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・8月の売上は前年比で、量販店が4%増、地域型店舗が2%増、コンビニエンスストアが7%減であった。台風前の販売量が量販店でかなり伸びたことで、コンビニエンスストアの減少分をカバーできた。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・8月の来店客数は前年比で横ばい状態である。お盆の時期もあり、進物用のコーヒーギフト等がよく出た。販売量が若干増えたようだ。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・昨年は7～8月にかけてインターハイ等の大型イベントがあったため、宿泊・レストラン等の売上が過去最高だったが、今年は前年を下回っている。
		通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・同業種全体で人材不足になっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（業務担当）	来客数の動き	・6月から、料金プラン見直し目的での来店客数増が維持されている。それに伴い接客機会も増えたため、販売数も前年同月や前年より増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・食料品店や小売店では客の慎重な様子がうかがえる。悪天候も少し影響があった。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・とにかく来客が少ない。朝晩少し涼しくなったのでいくらかは良くなる。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響が薄れることを期待したが、冷夏、長雨の影響で夏物バーゲンの動きも鈍く、水着、浴衣、サングラス等の季節商材も最悪の状況である。初秋物の動きはあるが、全体をけん引するものではない。
		百貨店（業務担当）	販売量の動き	・8月に入っても夏らしい猛暑日の記憶がほとんどない。衣料品を中心に夏物の最終処分も勢いが無い。
		百貨店（営業統括）	来客数の動き	・8月に入り、天候不順が続いて客足が悪い。お盆期間の帰省客の来店が減少している。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・夏休み中の不安定な天候の影響を最小限に抑えようと集客策を強化した。その結果、行楽目的の来店が増え来客数は健闘したが、季節商材の動きは今一つに終わった。昨年は猛暑でUV商材が好調だった分、今年は苦戦している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・高額商品が売れなくなった。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前半に雨が多く、本来売れる盛夏商材の乾麺や飲料、アイスクリーム等の売上は極めて厳しい。しかし、生鮮食料品の肉、魚、野菜等が好調に推移し、全体の売上は前年を超えている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・販売量が減っており、販売単価も伸びていない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客数が前年比97.6%で推移している。客単価は上がっているが、買上点数が0.3%ぐらい下がっている。販売の工夫がまだ足りない状況である。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・食品は前年を上回って推移しているが、衣料品・住居用品は長雨の影響もあり夏物の動きが悪く、売上に影響している。
		スーパー（業務担当）	単価の動き	・数週間も雨の日が続いたため、地場産の野菜相場が高騰し始めており、品質も若干低下してきたため、生鮮関連商品の売上が悪化している。また消費税増税の影響も歯止めがかからず、高単価の家電製品等が伸びない。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・夏休みで客数、販売量共に多いが、ボーナス時期の6月とはあまり変わっていない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・スタンプシールの売出し、金曜日ごとにイベントをしても客が増えない。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・雨が多かったので来店数は少なかったが、気温が低かったので秋物の先取り商品が売れた。
		衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・夏物のバーゲンセールから秋物の立ち上がりまでの期間が短くなったため、マインドの高い客に関しては、秋物の新作要望がかなり高まっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税増税後若干落ち込んだが、6～7月とその反動も薄らいできた。しかし、8月はあまり調子が良くなかった。台風の影響もあるが、消費税増税の反動減については、9～10月をみないと景気判断がつかない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・天候不順のため、夏物主力商品のエアコン、冷蔵庫等の動きが鈍く、他の商品にも悪影響が出ている。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響や天候不順もあり、季節商材が振るわず好転の兆しが無い。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・8月は稼働日数が少なく、車両販売台数が多く見込めない。前年並みの販売台数は確保できるが、単月利益は赤字になるかもしれない。景気回復は実感できない。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・8月に入り、来客数は消費税増税前の水準に戻ってきた。しかし、新規の企画はまだ軌道に乗っていない。消費者の財布のひもは相変わらず固い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、高止まりの状況からはやや下がりがつつある。小売価格が高止まりしているときは、定量・定額購入による給油が多少増加したようだ。顧客の様子をうかがうと、生活必需品である燃料油の購入については、夏休みファミリー旅行等に自家用車を使用し、旅行予算から燃料油分が超過した場合は他の経費を抑え、旅行総額は変えない様子がうかがえる。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕（広報担当）	販売量の動き	・梅雨明け後の衣料品が盛夏物を中心に好調である。住関連も寝具を中心に梅雨明け後好調である。昨年よりも気温が低く猛暑日も少ないため、アイスや飲料が不振となっている。
		その他小売の動向を把握できる者 〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・来場客数、売上共に前年並みである。
		高級レストラン （支配人）	来客数の動き	・特にディナータイムの来店が少ない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・客数は、前年同月比でほぼ横ばいである。
		都市型ホテル （副支配人）	単価の動き	・個人客の増加が堅調で、しかも単価の高い客が来ている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・長雨の影響もあり、九州内の海関連施設や商品、日帰りのバスツアーなどは前年を下回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・ホテルの宿泊が多くても自家用車やレンタカー利用なので、タクシー利用は少ない。夜のピヤガーデンも雨でパッとしなかった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・2～3か月前に比べると横ばいの状況は変わらないが、夜の動きが非常に悪い。昨年に比べても売上が下がっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は全体的に売上が良かった。特に日中の客の動きが良く、県外からの観光客の利用も多かった。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月にしては天候不順で雨が多く、例年のような人の流れではなかったが、前年の売上を若干上回ることができた。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・お中元商戦の特需時期だが、期待した販売量に届かなかった。前年同月比も下回った。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・食品の価格が通常の倍になっている。
		ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・今月は雨等で生鮮食料品が値上がりし、家計に響いている。しかし、ゴルフ場の入場者数は徐々に伸びつつあり、例年並みの活気はあるようだ。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・夏の需要シーズンにもかかわらず、天候不順等もあって景気回復が遅れている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて客数も変わらず、景気が良くなったとは言えない。
		その他サービスの動向を把握できる者 〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・顧客数は消費税増税以降、若干戻りつつあるが、売上についてはサービス利用回数減により、前年より減少傾向にある。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・資料請求数など変わらない。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・宅建業の住宅分譲は、チラシ等で客の来場は見られる。しかし、問い合わせがあっても成約まで時間がかかるうえに、値引き交渉が非常に厳しく、売れたとしても利益率は低い状況が続いている。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・突然の豪雨や晴れ間がない日中など、異常気象に頭を悩ませている。顧客の購買欲の有無の前に来店がなく、天候に打撃を受けている。
		一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・夏は、暑さで来店数は少なくなるが、さらに大雨が続く売上は減少している。雨が降れば大型ショッピングセンターに客が流れ、人通りがない。来客数・販売量共に大幅減である。天候の影響が強すぎるので、消費税増税の影響があるかどうか分からない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・夏休み子供催事や食品催事と文化催事で来店客数は増えた。しかし、レジ客数と買上単価が低下し売上も横ばいとなっている。紳士服・雑貨とリビング用品は好調な反面、婦人服・雑貨は苦戦した。お中元贈答は減少したが、ギフトセンター終了した後も、帰省客による持ち帰りでの通常の売場が混雑した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・百貨店を取り巻く雰囲気は良くない。景気の状況は足踏み、もしくは悪くなっている。
		百貨店（経営企画担当）	単価の動き	・入店客数は消費税増税後伸びているが、駆け込み需要の反動による買い控えから客単価は落ち込み、増税後厳しい状況が続いている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・関連店舗の売上は前年同月比94～103%であった。天候不良のため特別対策の売出しを増やした店舗もある。衣料品関係が悪いのが全店共通している。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・今月より婦人服売上が回復傾向にあるが、ファッション関連の売上が依然低迷している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税後の回復が遅い。特に価格によって販売量に変化する加工食品や日配品の動きが悪い。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響は6月ごろ収まったと思われたが、長雨、冷夏の影響で販売額が伸びない。今後は、天候不順による青果物等の高騰が懸念される。
		スーパー（統括者）	競争相手の様子	・当社の既存店の売上高は厳しく、競合他社も同様の状況である。消費税増税以降の業績は伸びない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・天候が悪く、夏物商品の売行きが鈍化し、前年を大きく下回っている。客単価も10円ほど低く、買上点数も大きく不足している。無駄な買物をしない客が多く、厳しい状況が続いている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・雨が続き夏とは呼べないような天気で、通常、夏の売上が一番高いが、前年比1割減で販売量が推移している。
		衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・20日締めの上場企業の売上前年比、及び現在進行中の当社の売上推移等をみると非常に悪い。消費税増税による買い控えに天候不順が重なり、最近では例をみない程悪い状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・軽自動車の受注が多く、利益が出ない。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・8月上旬に、週末に台風が接近した影響で、飛行機の運航中止や天候悪化により客足が伸びず、売上が1割5分ほど減少した。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・建設業、不動産関係者の利用により、例年よりも忙しく、良かった。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・例年、飲食店は夏場が振るわないのに加え災害が多かった。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・今まで高価なコースを注文していた客が、1～2ランク下のコースを注文するようになった。また、割引コースや格安フェアの注文がかなり多くなってきている。客の志向が変わってきているようだ。
		都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・前年より宿泊婚礼は増加しているが、宴会件数は減少している。会社全体のとしては前年比プラスであるが悪くなってきている。
		旅行代理店（企画）	販売量の動き	・前年同期比に比べ取扱額が下回っている。また、個人消費においては海外旅行の申込が伸び悩んでいる。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・民間住宅の設計がかなり落ち込んでおり、なかなか回復しない。
		住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・4月以降、住宅の完成見学会の来客数が減っており、3分の1～4分の1となってきた。それに伴い受注の数もかなり厳しい。同業他社の動きを確認しても同じような意見だ。消費税増税後の動きが少し鈍くなってきた。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順により非常に客足が落ち込んだ。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客は1円でも安い方を購入するようになっている。当店は新品を扱っているが、他の古着屋は非常に客が増えている。経済状態は決して良くなっていない。特に年金生活者の生活は非常に厳しい方向に向かっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・周辺の同業者が安売りをしているにもかかわらず、当店は通常通りの営業をしている。当店の製作部門は安定しているため、何とか経営が成り立っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	お客様の様子	・最近、商店街付近に24時間営業のコンビニエンスストアが増加し、商店街に来る客が少なくなった。
		一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・梅雨前線、台風の影響による高温多湿、長雨で、全国的に野菜不足となっている。宮崎では信州産レタスが600円を超えた。熊本産キョウリも1本100～150円となっている。ただでさえ販売量が減るこの時期に、単価が高いのでかなり厳しい状況である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・8月は通常のお祝いギフトは控えられ、お供えの花が売れる。しかし、今年は台風がきたり、雨が降ったりしてお墓参りが減ったため売上は良くなかった。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・昨年の7～8月の記録では、35度以上の日が41日あったが、今年は全く夏らしい日がない。そのため飲料が売れず、前年比7割と非常に低迷している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客足が鈍く、接客よりも待機の時間が長い。客は買物をする気持ちにならないようだ。
企業 動向 関連 (九州)	良く なっている	出版・印刷・同 関連産業（営業 担当）	受注量や販売量 の動き	・年度後半に予定していた自治体向け案件のうち、複数件が前半に前倒しになった。
	やや良く なっている	農林水産業（経 営者）	受注量や販売量 の動き	・鶏肉相場の高騰による品不足の傾向が強い。特に冷食、ハム・ソーセージメーカーの原料不足が著しく、取引先からの注文に対応できない状況である。スーパー、居酒屋等からの注文数も多い。夏のお中元ギフトの注文数も昨年に比べると、若干であるが上回っている状況である。
		家具製造業（従 業員）	受注価格や販売 価格の動き	・8月の月別売上指数は、前年と同程度の指数であったが、1件当たりの受注額が増えた。低価格商品より、やや高額に価格設定しているミドルクラスの家具が多く売れたため、売上は前年比で110%だった。ローコストな中国製の家具よりも、国産品かヨーロッパ家具などの売上が伸びている。
		電気機械器具製 造業（取締役）	取引先の様子	・仕事があるのに人手が足りない、断るしかないなどの声を聞くことがある。
		その他製造業 （産業廃物処理 業）	受注量や販売量 の動き	・取引先の新機種生産量が増加傾向にあるため、受注が徐々に増えている。
		金融業（調査担 当）	取引先の様子	・設備投資への融資が堅調に推移している。
		経営コンサルタ ント（代表取締 役）	受注量や販売量 の動き	・弊社への発注件数・金額共に上向きつつある。
	変わらない	農林水産業（営 業）	取引先の様子	・業界では、荷不足感や値上げ感が高まるものの、販売数量が伸びていない。
		食料品製造業 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・端境期であるが、比較的受注数も多かった。
		繊維工業（営業 担当）	それ以外	・ここ2～3か月間は変化がない。しかし、運送代の値上がりが激しい。運送会社と交渉中であるが、通常ではありえない値上げが提示されている。
		化学工業（総務 担当）	受注量や販売量 の動き	・工場の稼働状況は3か月前と特に変わらない。
		金属製品製造業 （事業統括）	受注量や販売量 の動き	・引き合いや受注は前年比で増加しているものの、深刻な人手不足により受注先の工事が進まない。建築設備機器を生産している当社では、計画通りに売上が立たない。受注残ばかりが増加傾向にある。
		一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・全体の注文量は前月と変わらないが、半導体分野の注文量が少ない。
		電気機械器具製 造業（経営者）	取引先の様子	・顧客から案件の話はあるが、話し通りに契約ができないことに悩んでいる。9月になったら少し落ち着くのではないかという楽観もあるが、現在、生産が増えていないのが実態である。
	通信業（経理担 当）	受注量や販売量 の動き	・IT関連の受注量が増えてきている。好況に支えられて、全般に設備投資が積極的に展開されているようだ。	
	金融業（従業 員）	取引先の様子	・製造業では、一時的に消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられたが、生産は概ね横ばいで推移している。一方、個人消費は夏場の天候不順などのマイナス要因はあるものの、所得環境の好転により、やや持ち直している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・売上は増加傾向にあるものの、建設業、運送業、システム開発を始め、中小・零細企業は全業種的に人手不足が顕著である。そのため、売上は上がってもコスト高である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・景気は高水準を維持している。特に設備投資については、アベノミクス効果もあって高水準となっている。製造業も小売業も積極的な投資がみられる。
		広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、4月から前年割れの状態が続いている。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・営業の反応が悪く、成果に結びついていない。新規契約はなかなか困難である。
		経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・売れているメーカーと売れていないメーカーの差が開いている。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・現況は落ち着いている感がある。資金ニーズも数か月前と比較し同レベルである。不良債権もなく、取引先の環境は比較的好調である。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税直後はそうでもなかったが、8月は台風と異常気象のために、特に定番商品の動きが悪かった。メーカー各社でも忙しいところと暇なところが出ており、総じて商品の荷動きが悪い。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーの動きがはっきりしない。なかなか受注量が上がらないので、原因をいろいろ模索する必要がある。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・前年度同期の発注と比べて、明らかに少なくなっている。積算量の少なさに驚いている。下半期の発注に期待をしたい。
		輸送業（総務）	受注量や販売量	・消費税増税後の荷動きが悪い。
		輸送業（総務担当）	競争相手の様子	・客から預かっている貨物の荷動きが非常に悪くなっている。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連業者が多い地域で、前期からの繰り越し工事もあり、各社とも資金繰りは落ち着いている。ただし、昨年度、災害復旧関連工事が多く発注された反動減で、今年度の発注件数は大幅に減少している。そのため、景況感については一つ後退している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・8月の景気は、悪いと言われた7月より更に悪化した。天候不順が大きな原因であるが、消費税増税の影響が大きかった7月よりも8月が落ち込んだことは心配である。
	悪くなっている	—	—	—
	雇用関連 (九州)	良くなっている	—	—
やや良くなっている		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・大手保険会社の地方への本社機能移転より、直接雇用である契約社員の求人が増えている。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・求人数が増えてきている。新規オープンの小売店が多くあり、活気が出てきている。さらに、派遣だけでなく直接雇用を前提とした紹介予定派遣が増えてきた。また、登録スタッフに仕事の案内をしても、現在別の面接を受けていると答える方が多い。派遣スタッフ登録の予約を入れたが、仕事が決まり登録をキャンセルする方も多い。
		人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・派遣から直接雇用を前提とした紹介予定派遣や、直接雇用での人材紹介の案件が確実に増加している。ただし、派遣法改正を見越しての動きの部分もある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・5～7月の新規求職者数は、昨年比で594件の減となっている。建設、医療、介護等をはじめ、製造、飲食、各種産業において人手不足となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比で5か月連続増加している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・4月以降の有効求人倍率は、各月すべてで前年同期比プラスとなっている。新規求人倍率は4月以降上昇傾向にある。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人はばらつきがあるが、平均すると若干増加している程度である。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・学生の内定者、決定者の割合がここ数か月、昨年より好調で、先月も前年比5ポイント程度上昇している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数の動きとしては堅調に推移しており、変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・8月は雨量が多く、小売、サービスを始め多くの業種で影響が出ており、求人数も伸びがない。 ・有効求人倍率は増加傾向にあると言われているが、求人広告全体としては横ばいとなっている。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・有効求人倍率が劇的には改善していない。
		民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・製造業、小売業、介護関連等の求人は非常に多いが、労働者派遣の主力サービスである専門業務の求人はほとんど増加していない。
		学校〔専門学校〕(就職担当)	求人数の動き	・本校の求人数は前年比115%前後という状況が続いており、状況に大きな変化がない。また、内定状況も昨年同時期比プラス10%弱で推移している。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社(編集者)	求人数の動き	・取引先のビルメンテナンス会社の話では、新規案件を取りたくても人員の確保ができないので入札を控えるとのことだ。また、最低賃金も大幅にアップするので経営戦略の見直しを余儀なくされている。
悪くなっている	—	—	—	

11. 沖縄(地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—	
		やや良くなっている	一般小売店〔鞆・袋物〕(経営者)	来客数の動き	・相変わらず観光客の来店が多く、免税品の売上が上がっている。
	変わらない		百貨店(営業企画)	来客数の動き	・客層の幅を広げるために実施したライフスタイル雑貨店の改装効果により、客単価は下がっているが、レジ通過客数は前年に比べ8%アップしている。また、アジアを中心とした観光客の免税売上も、前年比130%増と順調に伸びている。
			その他専門店〔書籍〕(店長)	販売量の動き	・今月に入り、前年比の減少幅が少なくなってきたため少しは上向き傾向を感じるが、完全に回復したとは言えない。
			通信会社(店長)	販売量の動き	・販売数が前年比で150%と大幅に伸びている。特にタブレットの販売が好調で新しいニーズができてきている。
			観光名所(職員)	来客数の動き	・先行予約は良かったが、西日本地区での豪雨災害や台風などの影響がある。
			住宅販売会社(代表取締役)	お客様の様子	・マイホームという夢を叶えるためもあつてか、住宅建築の相談が多い印象がある。
			一般小売店〔菓子〕	販売量の動き	・入域観光客は増えているが、土産品購入につながる割合が低いように感じられる。
			コンビニ(経営者)	販売量の動き	・休暇で里帰りをする人が多いが、売上は前年比で横ばいである。
			コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・前年は台風の影響を3度受けたが、今年は前年よりも天候に恵まれ、観光客や地元の客も増えた。それに比例して各部門の売上も好調である。単価の落ち込みも無く底上げをしている。
			家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・増税後の落ち込みは小さいが、長い間販売数量が伸びない。単価の上昇により売上は維持している。
			旅行代理店(マネージャー)	来客数の動き	・9月、10月の連休での旅行を計画している方からの問い合わせが多くなっている。
	ゴルフ場(経営者)	単価の動き	・需要はあるが、単価が伴ってこない。そういう部分がなかなか読めない。		
	その他のサービス〔レンタカー〕(営業担当)	来客数の動き	・当初は、前年並みの予約で推移していたが、2回の台風接近によりキャンセルが発生し、前年を下回る結果となった。		
	住宅販売会社(営業担当)	来客数の動き	・3か月前と同様の来場数となっている。		
やや悪くなっている		スーパー(販売企画担当)	販売量の動き	・来客数の悪い状況は続いているが、3か月前までは客1人当たりの購入点数が伸びて売上を押し上げていた。しかし、今月の購入点数は、前年を上回ってはいても3か月前に比べると減少している。そのため売上が落ちている。	
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数が、前年比で3%減になっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	お客様の様子	・売上は例年並みに推移しているが、高原価商品を看板にする店舗が増えている。仕込などの準備が増えることから人件費が上がり、利益率が低下している。観光客は台湾からだともみられる外国人が増えている。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	販売量の動き	・台風の影響を受け、直近でのキャンセルが発生したこともあり、客室稼働率は、前年同月実績を下回る見込みである。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が原因か、売上が落ちている。
	悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・来客数はある程度あっても、単価が下落しており、商店街の小売店は大変苦戦している。大型店では単価を下げて薄利多売もできるが、個人店ではできず、売上も落ちて大変厳しい状況にあるという話をよく耳にしている。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・問い合わせや来客数は増えているが、売上は前年には届かない。商店街も人通りは多く、特に外国人の数が前年よりも多いのがすぐに感じられる。しかし文化の浸透は浅く、地図など不慣れで移動に手間取るため、沖縄のお土産等の購入増加とはならない。また、相変わらず価格競争があり低価格の商品のみが売れる。まだまだ、厳しい状況が続く。
企業動向関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	食料品製造業（総務）	受注量や販売量の動き	・引き続き観光客の増加に旧盆シーズンが加わり、販売額が増加している。
	変わらない	輸送業（営業）	それ以外	・新規、既存顧客含め受注量は確実に増えているが、それをこなす人員不足が続いている。採用をかけるも補てんできず、既存従業員の残業が増えている。人件費の見直しなどで状況の打開を図るが全くめどが立たない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・IT関連の人材の確保が難しくなっていると感じる。求人を出しても人が集まらない。雇用形態は相変わらず有期契約がほとんどで、景気が上向いていると感じられない。仕事は十分確保できているが、相変わらず単価は低く、景気は3か月前に比べて変化はない。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事向け出荷は前年比増であるが、民間工事向けは消費税増税前の駆け込み需要の反動もあり、前年比で減少している。
	悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築及びリフォームとも、契約額が低下している。
雇用関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	—	—	—
	変わらない	求人情報誌制作会社（編集室）	求人数の動き	・5月の週平均件数は1,033件、8月は4週で平均903件であるが、売上の的には8月が若干上回っているため、3か月前と比較すると景気的には変わらないとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は増えてるが、偏っている感がまだ強い。
	やや悪くなっている	学校〔専門学校〕（就職担当）	雇用形態の様子	・新卒採用より経験者採用が増えている。
	悪くなっている	—	—	—